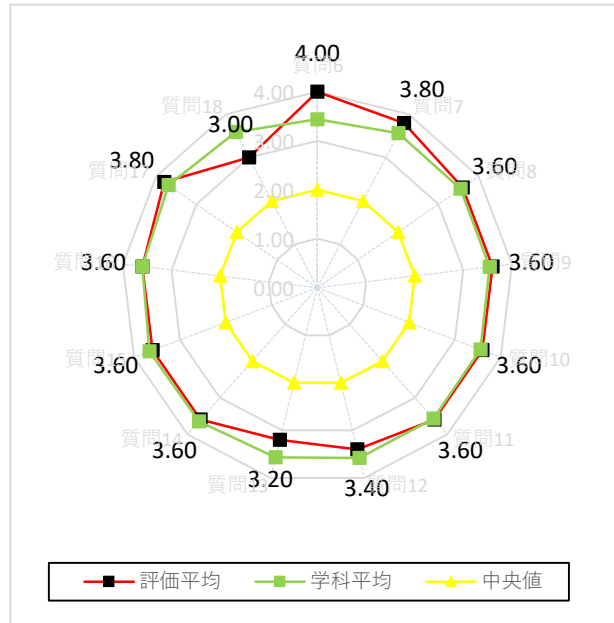
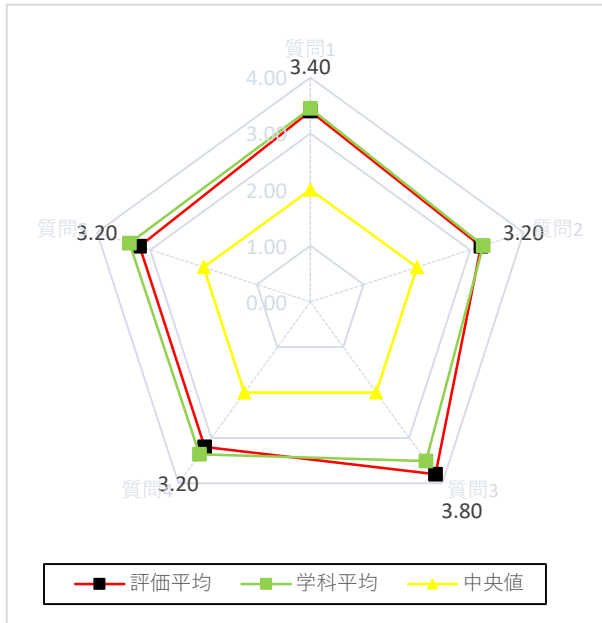


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう（初年次教育含）	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

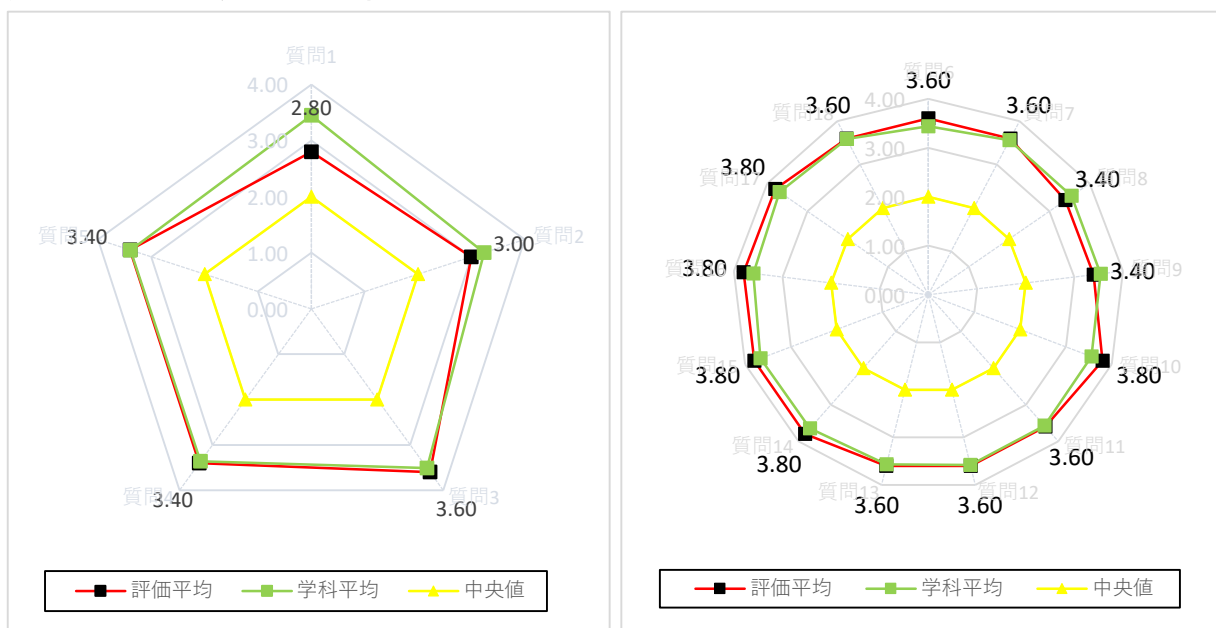
平均値よりも低い内容がいくつかあり、実習などで授業やグループワークに入れず、個々の学生にきちんと関わっていなかったことが原因であると考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習期間中も可能な限り時間を作り、グループワーク等に入り学生に対応していきたいと考えます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう（初年次教育含）	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

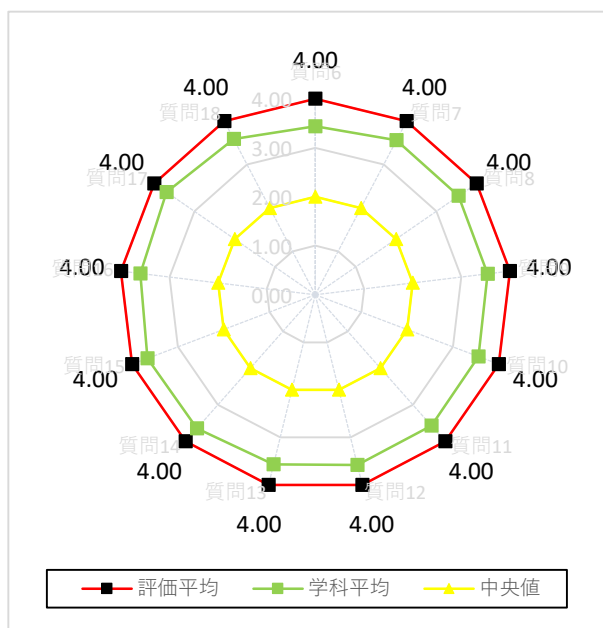
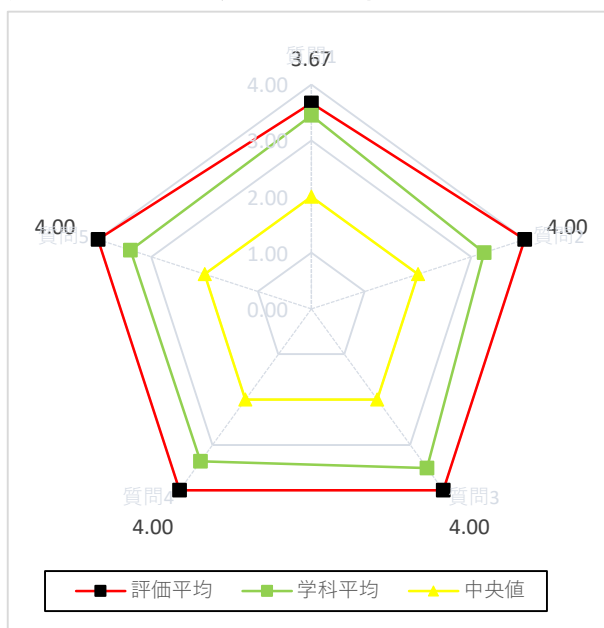
- ・ 学科平均との比較（共通教育科目については共通教育科目全体平均との比較）概ね平均同様であった。
- ・ 特に低（高）い項目についての考察
全体的に大きな差はなかったが、出席日数で全体平均を下回っていた。
- ・ 自由記述についての分析と評価
1名のみ記載であり、教員の話聞くことが役立つとの回答であった。
- ・ 本授業の目標、ねらいと照らし合わせた分析と評価
学生が主体的に活動する科目でもあり、目標・ねらいは到達できていると考える。
- ・ 授業全般に対する反省点
担当講義が重複しており、ほとんど参加することができなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ (1)の授業評価結果で特に低かった項目に対する改善方法
授業の目的等を学生に説明・理解してもらうことで、学修効果が高まると考える。
- ・ (2)の授業全般の反省点に対する取り組み方法
講義の重複を減らし、可能な限り学生との時間を確保する。
- ・ 令和5年度に新たに導入したいと思っている授業方法 など
特記事項なし。
- ・ 授業評価そのものに対する意見を含んでも可
確実に授業評価を行ってもらうような周知徹底が必要。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう（初年次教育含）	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

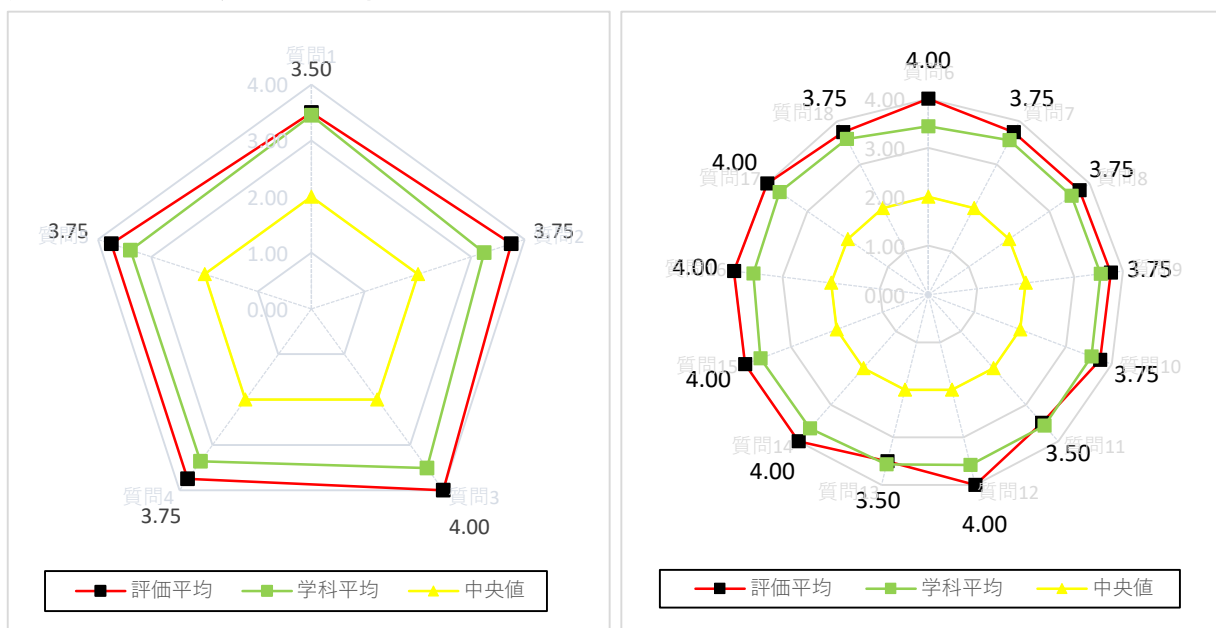
全般に高得点であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の意欲を引き出すかわりを強化したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう（初年次教育 舎）	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、看護学科にて1年生の履修必修科目である。授業評価の回収率は08%であった。

看護学科でのあすなろうの授業は、前期は大学での学びや学修方法の講義、大学の沿革等の講話、10名程度のグループ別の交流会（自己紹介や大学での生活の疑問を語る交流会、大学周辺の散策）社会人基礎力講座があり、後期は防犯意識を高める講座、キャリア開発講座など多くの講座がある。後半はそれらをまとめて発表するためのスライド作成をグループで行うなど、自主性や協調性を養う。

学生の参加満足度は高く（3.5～4.0）、教員の対応についても高評価（質問の6つが満点）が得られ、授業内容や方法に満足している。

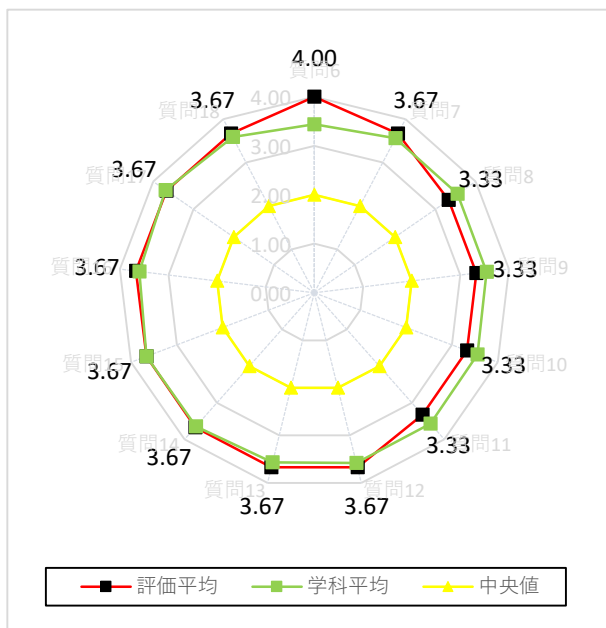
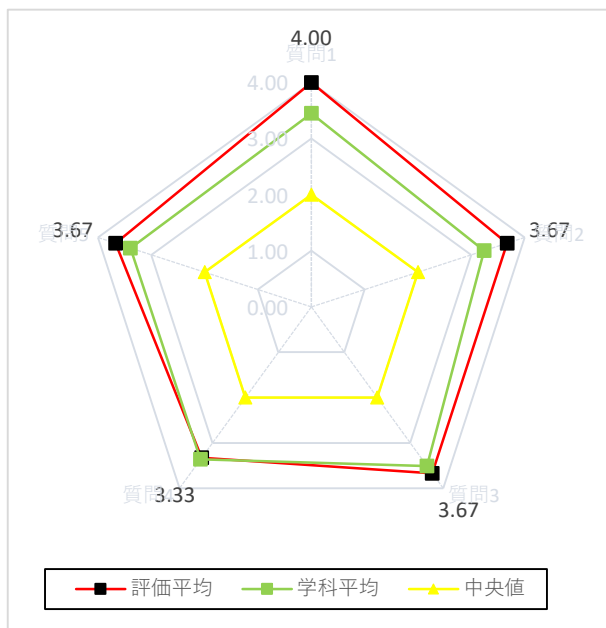
(3) 次年度に向けての取り組み

今後も学生に寄り添い、日常生活や学修の支援を行い、実り多き大学生活を送ることができるように、しっかり支えていきたい。

また、授業評価アンケートは、今年度のように授業最終日に時間を取って、入力を促していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう（初年次教育含）	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

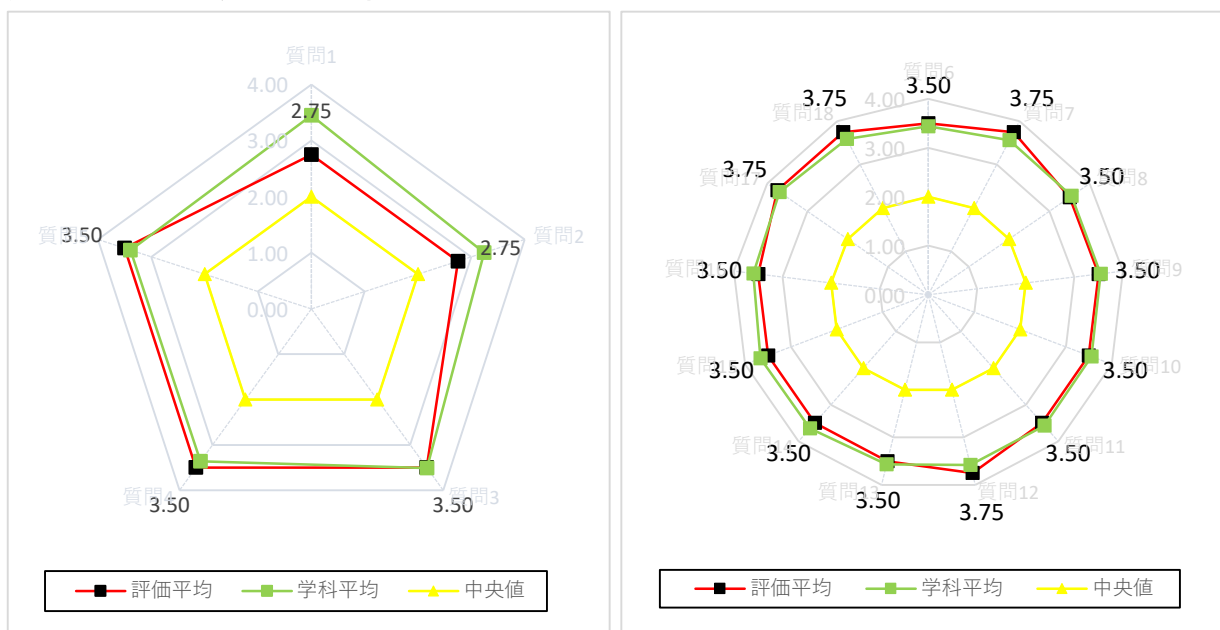
総合評価は 3.61 ± 0.53 であった。授業への参加は4で比較的良好に参加できていた。授業内容にも3.33~3.67と概ね良好と思われる。配布資料や視聴覚の工夫などの質問の評価はやや低い。この授業の先輩方の話は、自分の将来を考えるために役立ったという意見が聞かれ、決意を新たにするいい機会と思われた。クラスにも慣れてくるにはいい授業内容の取り組みであったと思うが、意見交換や交流するにはグループの規模が大きかったと思われた。コロナ禍での活動が少なかったのは残念であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

全体的な取り組みであるため、大きく修正はできないが、ゼミのクラスが少なく、交流が少なかったと思われたので、教員と野交流の機会をもう少しもっていききたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう（初年次教育含）	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

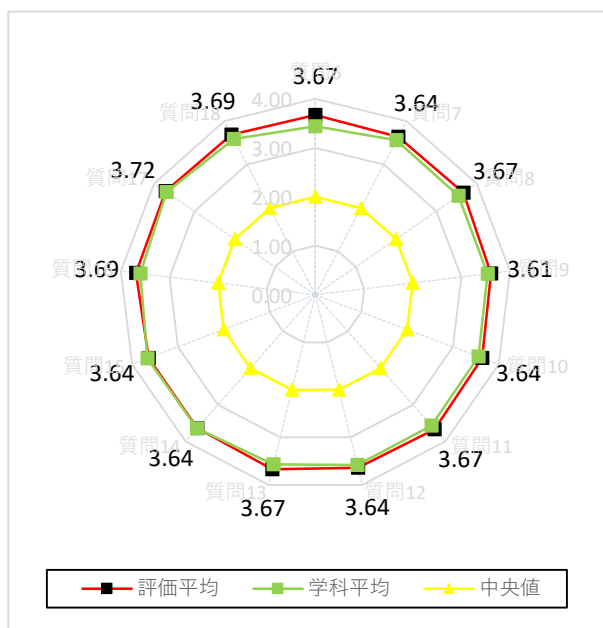
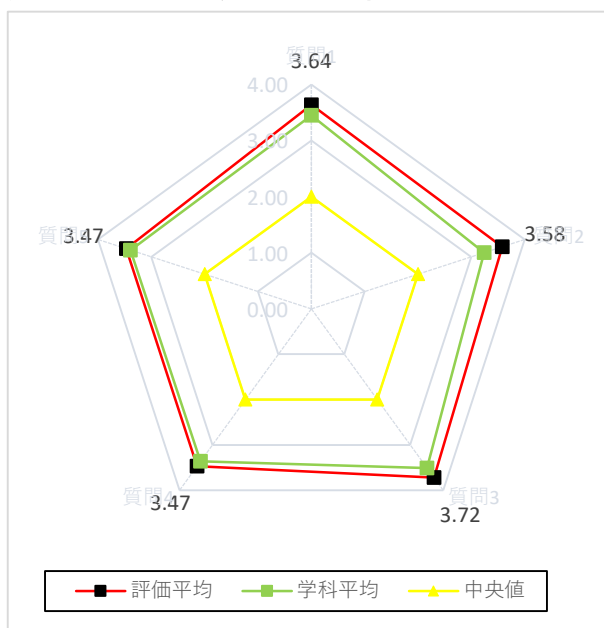
今年度の講義では、他科目において、2人体制のところを一人で実施することに時間を割いてしまうことになり、本講義に参加する学生への配慮が不十分であった。学生の将来のキャリアプランと合わせて、効果的な講義運営が出来ていなかった。大変申し訳ない気持ちである。本講義の目標と学びが繋がるような運営をしていく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義の目的と学生個々が持っている看護職者としての将来像、キャリアプランと連動するように運営できるよう学生の学びのアシストを行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろうⅢ 臨地協働	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

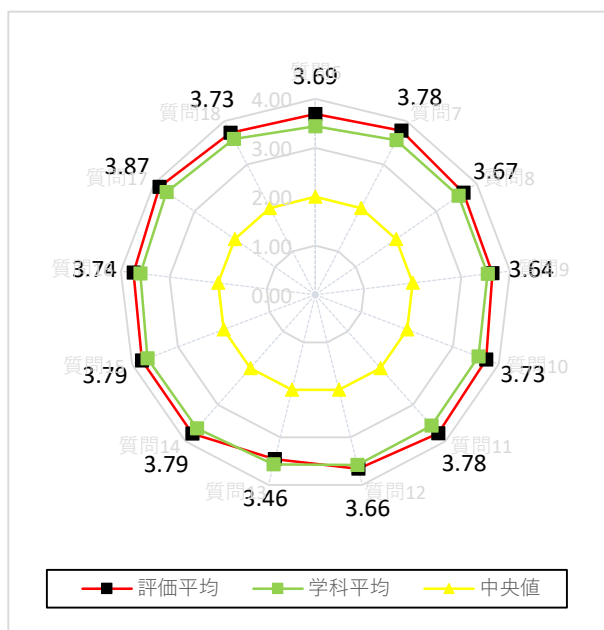
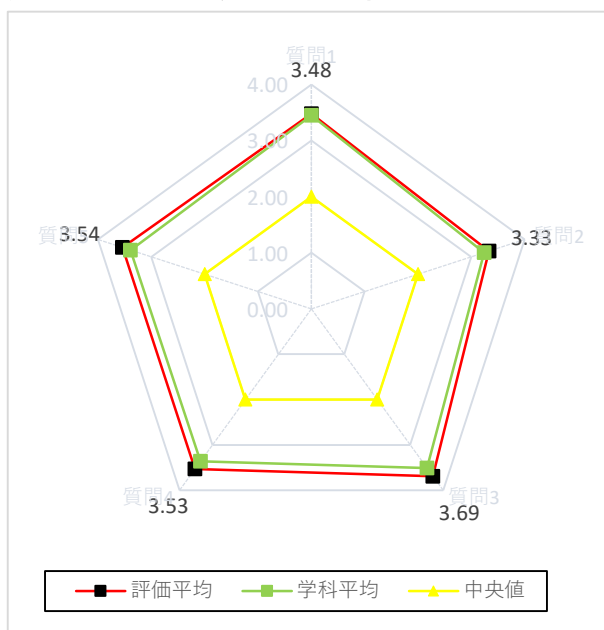
ほとんどの内容に関して、学科平均が平均以上の評価である。授業の目的・目標に沿って授業が展開できていると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生のレディネスを確認しながら、授業を演習をしっかりと展開していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		データサイエンス演習	107名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

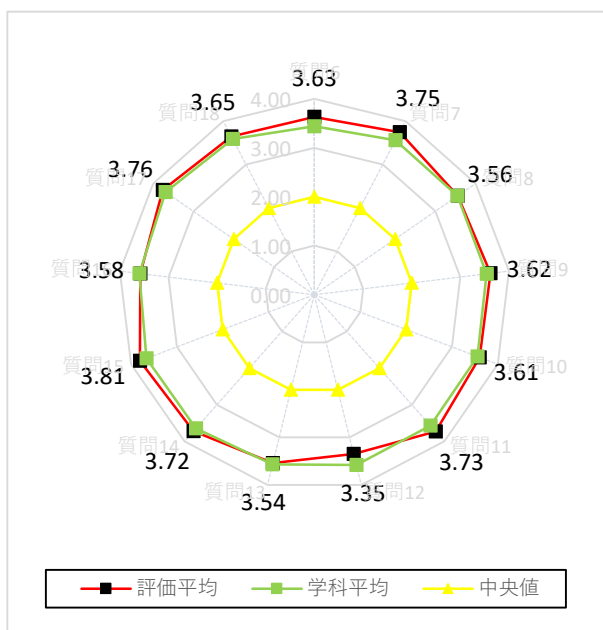
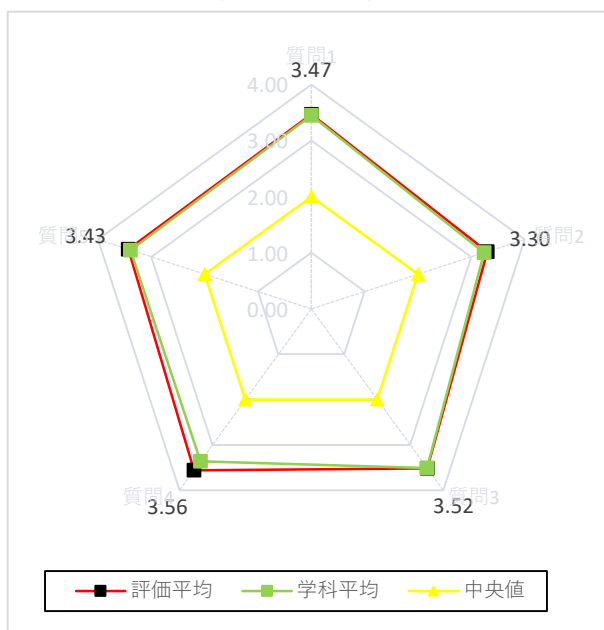
授業評価アンケートの回答率は95.3%であった。大半の質問項目で学科平均値を上回っており、概ね学生のニーズに対応した授業であったと言える。一方で、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」が学科平均値を下回っていた。PC操作が苦手な学生も多い中で進行したため、十分な個別対応が出来なかったことが要因と考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が卒業後求められるPCスキルや、実際に操作するPC環境を考慮し、教授する項目を精選していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		病理学	107名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

1. 評価項目全体を通して、全項目が学科平均に近似している。
2. その中で、到達目標や授業展開（質問7）、学生への公平な対応（質問15）などは平均よりやや高い。
3. 一方、声の大きさ・明瞭さ（質問12）は平均より劣る。
4. 自由記述で以下のようなコメントがあった。
 - 1) 授業のプリントが見やすくわかりやすい。
 - 2) 小テストも授業の理解に役立った。
 - 3) 声を大きくしてほしい。うしろの方は聞き取れない。
 - 4) ホワイトボードの板書が少し見えにくい。

(3) 次年度に向けての取り組み

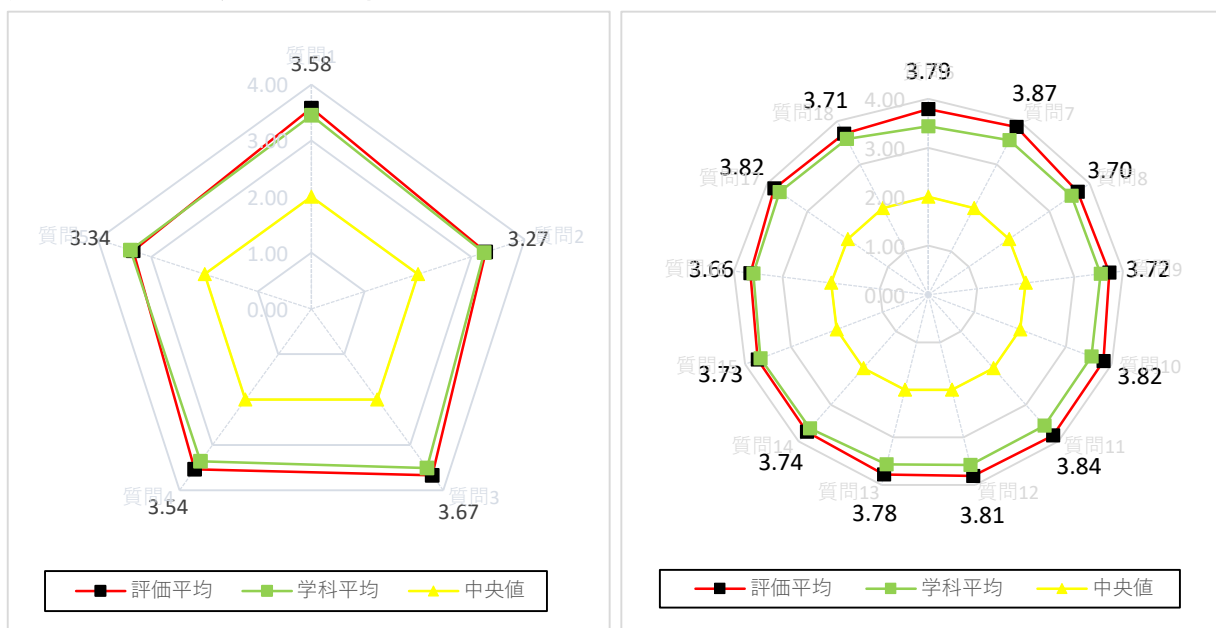
パワーポイントを使った講義内容、資料、教科書、補足説明のプリント、白板での補足説明など評判がいいので続行する。また、小テストも評価を受けているので次年度も基本的に同じように行う。

評価結果を受けて、以下のように改善を行う。

1. 講義に際し、滑舌、キレの良い話し方を心がける。スピーカーの音量を上げる。
2. ホワイトボードの使い方として、ボードの場所、文字を明確に記載するなど配慮する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		生活支援技術論	108名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

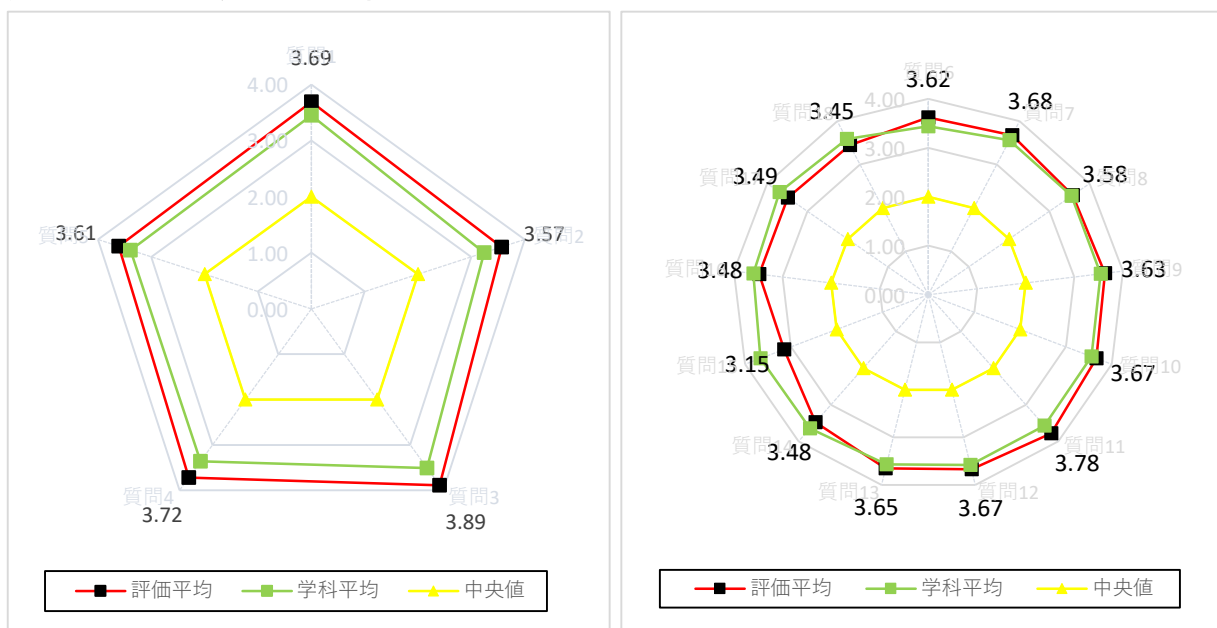
全項目の平均値は3.69であり、概ね学生のニーズに対応した授業であった。項目別にみると、学生の授業への参加態度をあらわす質問1～5の平均値が3.48と他のカテゴリーと比べて低かった。授業方法に関する質問項目6～13の平均値は3.79と高かった。学生の自由記述にあるように、ポイントを押さえた授業資料や看護技術に関する作成した動画が授業内容の理解や看護技術の理解や修得につながったことが評価につながったと考えられる。教員の対応に関する質問14～質問17について、平均値は3.73であり高値であった、授業終了後、学生に記載してもらっている「授業カード」の質問事項や感想・意見に対してTeamsを活用し、速やかにフィードバックをしたり、授業方法に活かすようにしたことが評価につながったと考える。一方で、演習について緊張度の高い雰囲気について改善を求める自由記述があり、学生への対応について検討する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

- 1) 学生が授業への能動的な参加ができるように、授業でのシラバスの活用やTeamsの学修支援機能を活用した事前学修の提示および確認、授業内容の理解への支援について引き続き取り組む。毎回の授業終了時実施する「授業カード」に記載された学生の意見や質問事項については、速やかにフィードバックを行う。
- 2) 前年度と引き続き、看護技術の学修や修得に効果的である動画を積極的に取り入れた授業の構築や時間や場所を選ばずいつでも自己学修に活用できるような環境づくりを行う。
- 3) 学生が主体的かつ積極的に授業や演習に参加できるよう、学生への対応の検討や授業の雰囲気づくりに取り組む。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		生活支援技術論演習	107名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

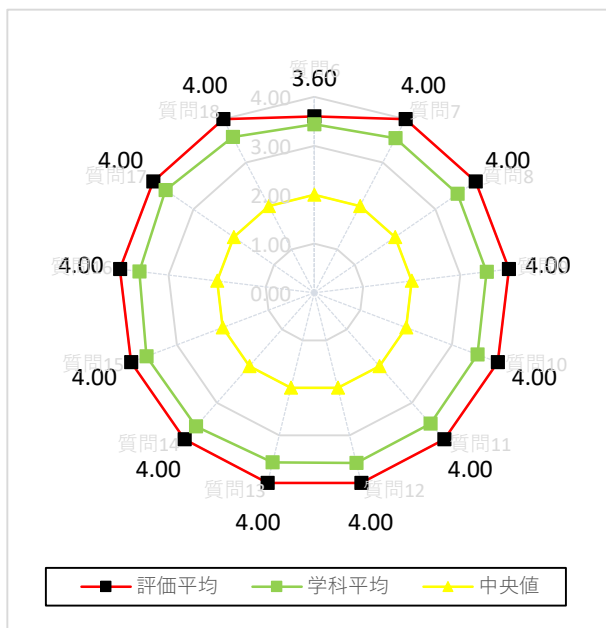
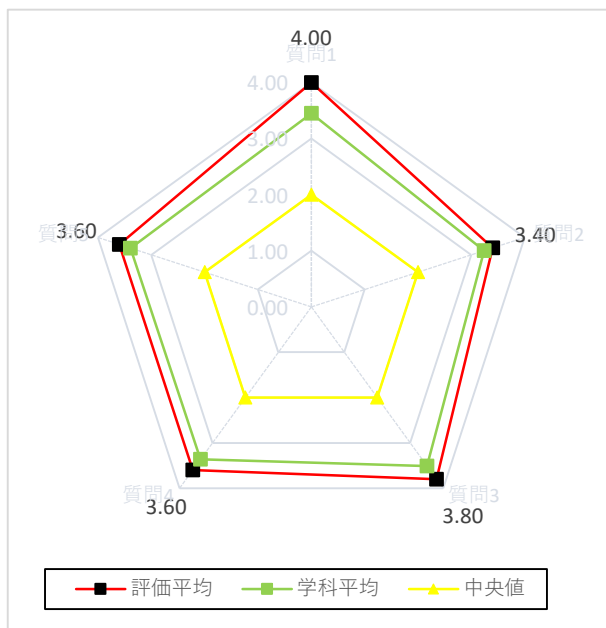
全項目の平均値は3.60であり、概ね学生のニーズに対応した授業であった。項目別にみると、学生の授業への参加態度をあらわす質問1～5の平均値が3.69と高かった。授業方法に関する質問項目6～13の平均値は3.66であった。自由記述にあるようにポイントを押さえた授業資料が授業内容の理解につながったことが評価につながったと考えられる。教員の対応に関する質問14～質問17についての平均値が3.4と他のカテゴリーと比して低かった。授業や演習について緊張度の高い雰囲気について改善を求める自由記述があり、学生への対応について検討する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

- 1) 学生が主体的かつ積極的に授業や演習に参加できるよう、学生への対応の検討や授業・演習の雰囲気づくりに取り組む。
- 2) 学生が授業への能動的な参加ができるように、授業でのシラバスの活用やTeamsの学修支援機能を活用した事前学修の提示および確認、授業内容の理解への支援について引き続き取り組む。
- 3) 看護技術の学修や修得に効果的である動画を積極的に取り入れた授業の構築や時間や場所を選ばずいつでも自己学修に活用できるような環境づくりを行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		リハビリテーション学	19名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

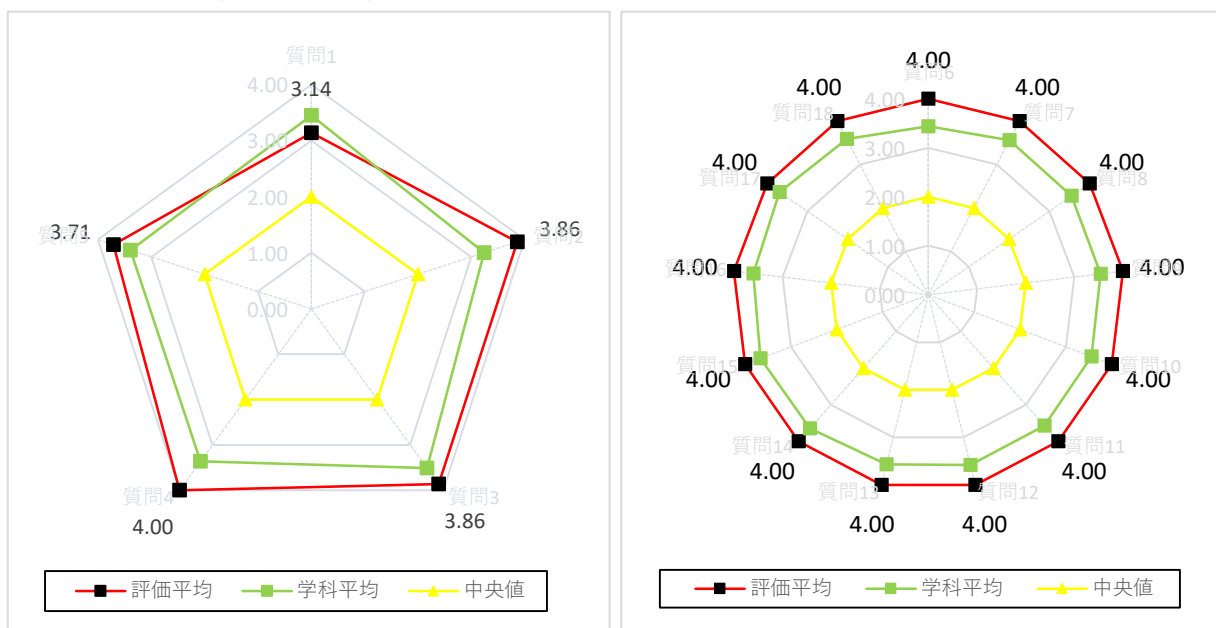
授業の総合評価は、平均4.00/4.00点満点であり、学生の自己評価は3.60/4.00点であった。評価が低かったのは、質問2 (3.4/4点)、質問6 (3.6/4点) の評価が低かった。ともにシラバスを活用したかという項目である。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価が低かったシラバスの活用についてだが、シラバス通りに講義を実施したものの、シラバスを活用することはなかった。次年度の講義では、科目全体の講義の流れについて意識するようにしたい。また、総合評価は高評価であった。これまで通りに意見交換を行いながら講義を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護理論学	88名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

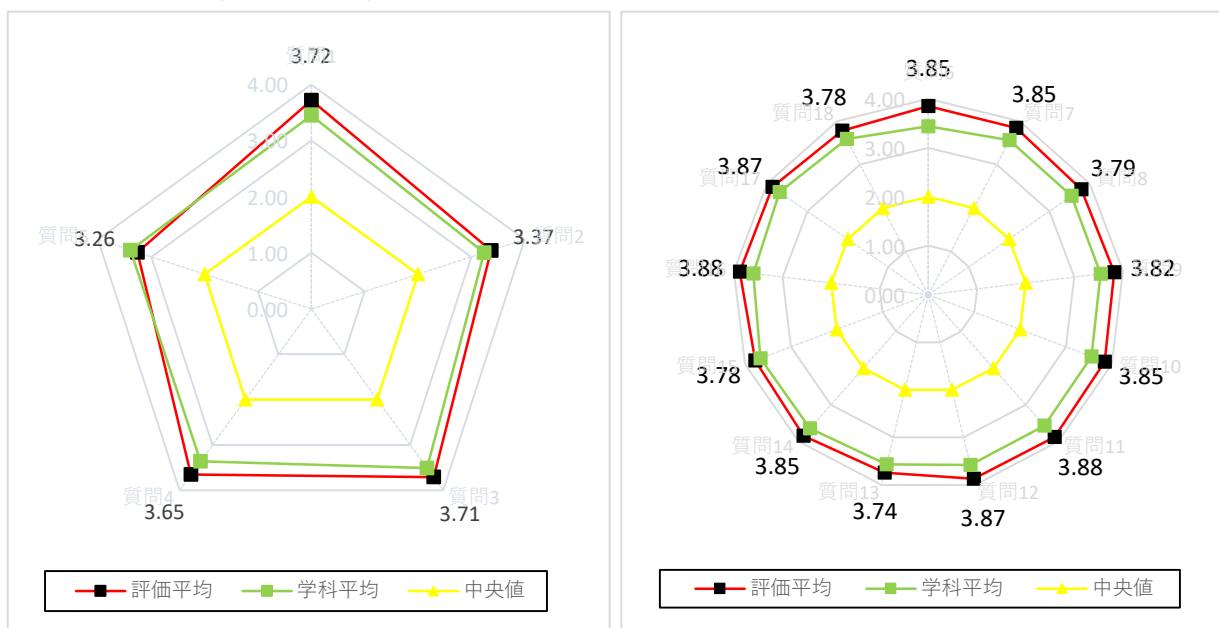
4年次の科目で総合評価が3.92±0.4と非常にいい評価であった。グループワークを取り入れた課題学修は主体的な学びが多かったため、満足感があつたと思う。課題についても、すでに学んだ内容と新たなテーマであったが、国試にむけての意欲と将来の就職後のカル同への職業意識も関係して、積極的な動きとなっていた。主体的な学習形態であったため、創意工夫も見られたため、時間配分などゆとりを持たせたのは良かった。他のグループの発表も聞けるよう、課題を2つにしたのも効果的だった。

(3) 次年度に向けての取り組み

主体的な学習形態は継続し、時間配分も調整できるよう、柔軟にできるようゆとりを持たせたい。創意工夫もできるよう、課題学修の進め方には自由裁量の幅を持たせたい。発表の進行も学生主体で進められるようにもっていきたい。4月5月の時間割が詰まった状態であるが、楽しい時間にできるようにしたい。文献は多少増やしたので、さらに画像やDVDなど興味・関心を持てるよう、また、発展するような方法を取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護過程論	104名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

【授業・教員への評価】

Q6～18は、授業そのものに対する評価であり、概ね学科平均を上回った高評価であった。初学者である学生の理解を随時確認し、数グループに教員を配置して随時指導を受けられる学修環境を整えたことや、毎回学生のレポートに対する評価をフィードバックし、個別の指導を行った成果であると考えられる。

【学生自身の自己評価】

Q1～5は、学生自身の自己評価項目であるが、自律した学修計画が求められるためか、学科平均を割る項目もみられた。本科目は、看護に必要な科学的根拠を基にした推論を論理的に説明する必要があるため、初学者には難しい印象があり、自己評価が下がったものと考えられる。しかしながら、本科目の成果は、その後に控える「看護過程論実習」と合わせて考えるべきものであり、座学の段階としては特段の問題にはならないと判断する。

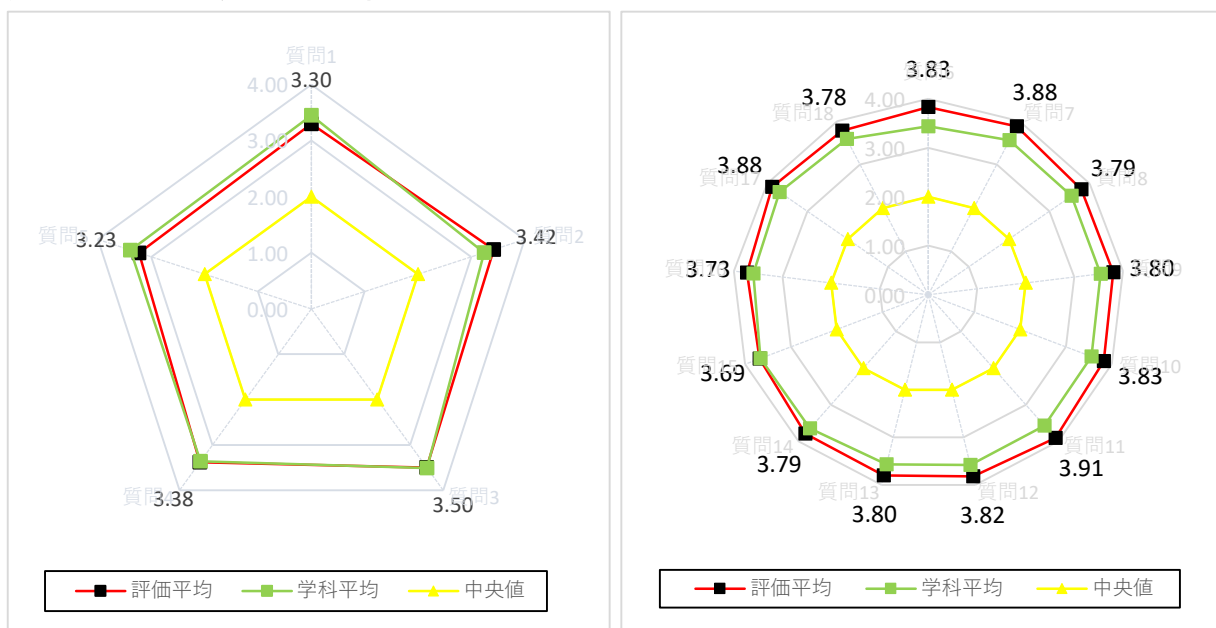
(3) 次年度に向けての取り組み

高評価を維持できるように、学生がイメージしやすい導入、段階的な課題提示、小グループ制による個別指導の継続を計画している。

1. 講義については現在の高評価が維持できるよう継続する。
2. 事例の検討（初学者がイメージしやすい疾病・看護問題でありながら、その後に控える看護過程論実習に有用となる内容の検討）
3. 個人ワークをベースとし、グループワークを活用しながらも個人の思考力を高めていけるような演習課題の提示を検討する。
4. 講義開始時の授業内容や目標の確認、前回の内容の復習を取り入れる

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		フィジカルアセスメント	100名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

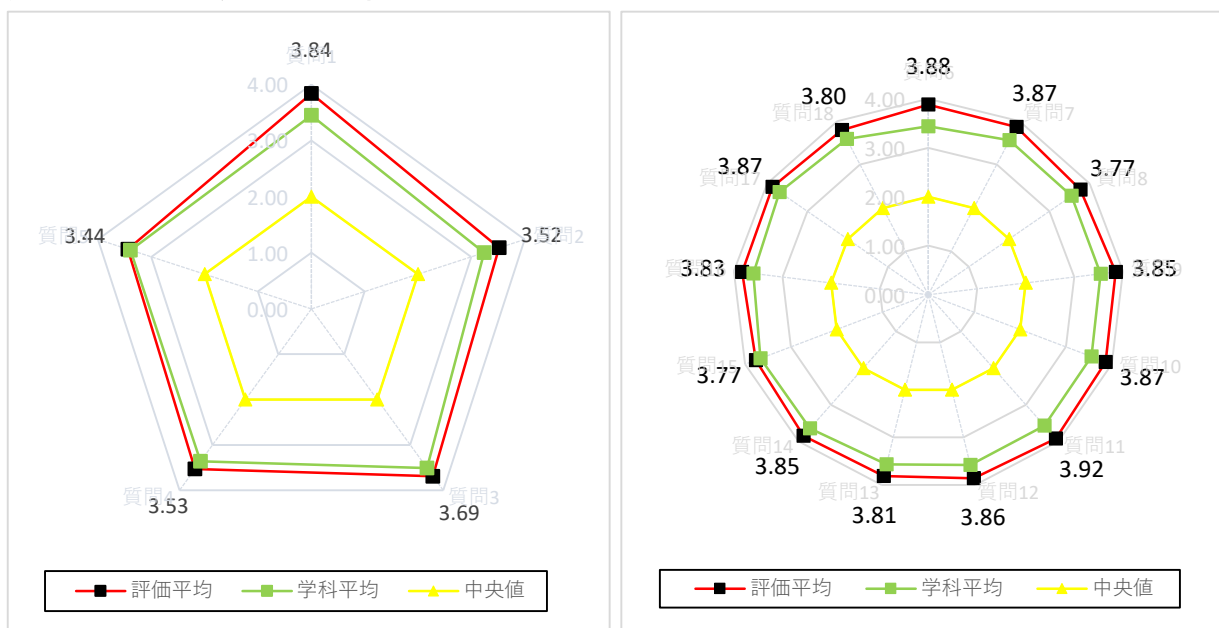
全項目の平均値は3.69であり、概ね学生のニーズに対応した授業であった。項目別にみても、学生の授業への参加態度をあらわす質問1～5の平均値が3.36と他のカテゴリーと比べて低かった。要因は明らかにできないが、学生自身が主体的かつ積極的に授業への参加ができていなかったと考える。授業方法に関する質問項目6～13の平均値は3.83と高かった。学生の自由記述にあるように、ポイントを押さえた授業資料や小テスト形式での知識確認、演習時の看護後術に関する具体的なアドバイスが評価されたと考えられる。教員の対応に関する質問14～質問17について、平均値は3.77であり高い評価を得ることができた。授業終了後、学生に記載してもらっている「授業カード」の質問事項や感想・意見に対してTeamsを活用し、速やかにフィードバックをしたり、授業方法に活かすようにしたことが評価につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- 1) 学生が主体的かつ積極的な参加ができるような雰囲気作り、Teamsの学修支援機能を活用した事前学修の提示および確認、授業内容の理解への支援について取り組む。毎回の授業終了時実施する「授業カード」に記載された学生の意見や質問事項については、速やかにフィードバックを行う。
- 2) 人体の構造や機能に関する基礎的な知識と援助技術の関連が理解できるような授業の構築を行う。
- 3) シミュレータを効果的に活用し、より臨床に近い状況を設定するなど、臨床判断能力の基盤となる状況認識およびアセスメント能力の育成につながる授業方法の工夫を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		臨床関連技術論演習	104名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

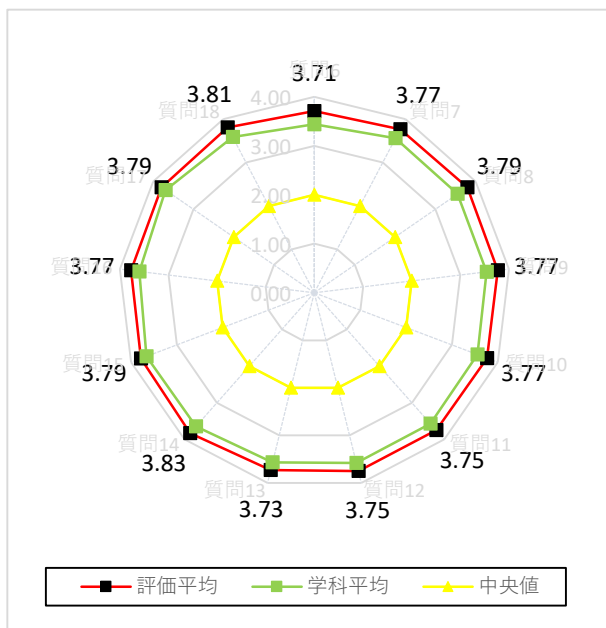
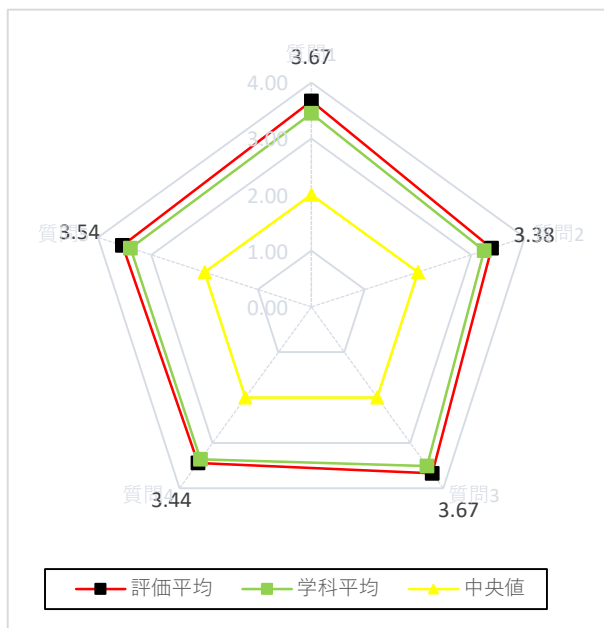
全項目の平均値は3.78であり、概ね学生のニーズに対応した授業であった。項目別にみても、学生の授業への参加態度をあらわす質問1～5の平均値が3.68と他のカテゴリーと比べて低かった。前年度と同様に要因は明らかにできないが、学生自身が主体的・能動的に授業へ参加できていないことが影響していると考えられる。授業方法に関する質問項目については、平均値が3.84であり高い評価であった。学生の授業への興味・関心を高め、学修内容の理解を促進することができたと評価する。教員の対応に関する質問14～質問17について、平均値は3.82であり高い評価を得ることができた。前年度と同様に授業終了後、学生に記載してもらっている「授業カード」の質問事項や感想・意見に対してTeamsを活用し、速やかにフィードバックをしたり、授業方法に活かすようにしたことが評価につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- 1) 学生が授業への能動的な参加ができるように、授業でのシラバスの活用やTeamsの学修支援機能を活用した事前学修の提示および確認、授業内容の理解への支援について引き続き取り組む。毎回の授業終了時実施する「授業カード」に記載された学生の意見や質問事項については、速やかにフィードバックを行う。
- 2) 臨床判断能力の基盤となる状況認識およびアセスメント能力の育成を意識した授業方法の工夫を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		成人看護学概論	104名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

問題は、未回答の学生の授業参加状況および科目内容学修状況にあると考えるため、今後はできるだけ多くの学生回答を収集する必要があると考える

全体の回答率は48%であり、授業評価自体の分析に資する回収状況ではなかった。

学生自身の授業参加状況については、回答者からは積極的に取り組む姿勢がうかがえ、また、授業内容についても回答学生のほとんどが、学科平均または学科平均を若干上回る結果であった。

特に際立って高い/低い項目もなかったのは、看護学概論としての位置づけだったからと考える。

自由記述については、学生の関心を引き出すような話題提供を行うことで、学生の学修参加意欲につながった場面も見受けられた。

本授業の目標、ねらいと照らし合わせると、学生は概ね目標到達ができたのではないかと考える。

授業全般に対する反省点は特にないが、学生の参加意欲を高められるような授業展開であっても良いのではないかと考えた。

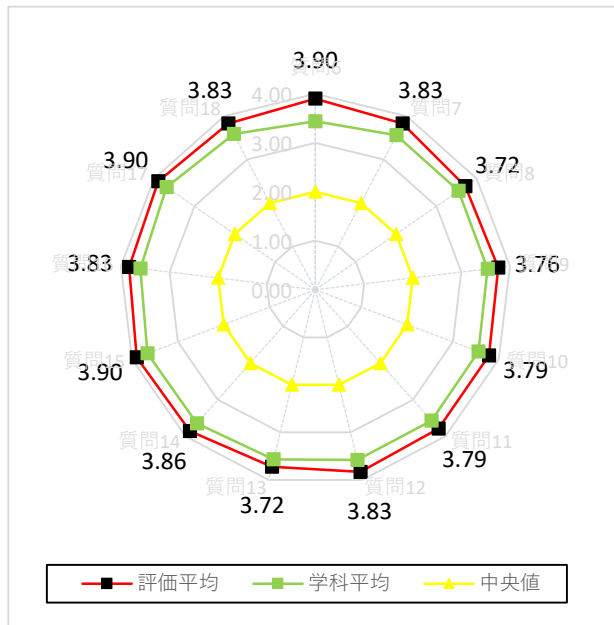
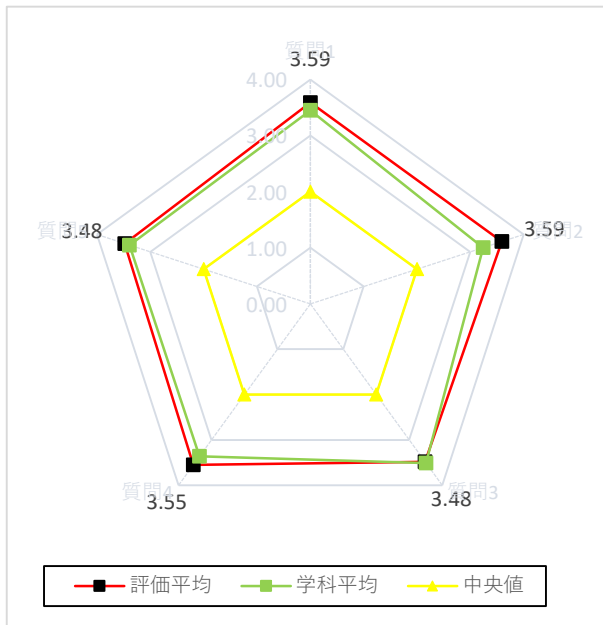
回収率が悪かった理由として、科目終了後のアナウンスが十分ではなかった点が挙げられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ (1) の授業評価結果で特に低かった項目に対する改善方法：目立って低い項目はなかった。
- ・ (2) の授業全般の反省点に対する取り組み方法：授業評価アンケートの周知徹底を行う。
- ・ 令和5年度に新たに導入したいと思っている授業方法：担当教員の変更があったため、現状では講義形態を変えず、次年度以降に検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		成人看護学方法論 I	100名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

・ 学科平均との比較（共通教育科目については共通教育科目全体平均との比較）
 回答率は29%であったが、全体平均を上回る評価であった。

・ 特に低（高）い項目についての考察

評価が低かった項目は、自己の学修評価に係る部分であり、特に解剖・生理、病態・治療に係る単元は回答者の理解度に直結するため、関連する既習科目とのつながりが理解できていないことが実感できたのではないかと考える。

・ 自由記述についての分析と評価

1件のみの記載があったが、授業展開については概ね良かったと考える。

・ 本授業の目標、ねらいと照らし合わせた分析と評価

後半は演習等を積極的に導入し、Think/Pair/Shareを意識しながら、アクティブラーニングにつながるよう意識した。結果、学生の評価は高かったと考える。

・ 授業全般に対する反省点

学生の解剖・生理、病態・治療に係る知識を確認するために多くの時間を要してしまった。

・ 回答率が低かった理由 など

今年度は授業評価を積極的にアナウンスしていなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

・ (1) の授業評価結果で特に低かった項目に対する改善方法

学生の関心を引き出すような授業展開と、既習科目との連動を意識する。

・ (2) の授業全般の反省点に対する取り組み方法

演習に資する学内機材が乏しく、本来のシミュレーションベースドレクチャーは実施できなかった。必要機材の整備が必要である。

・ 令和5年度に新たに導入したいと思っている授業方法 など

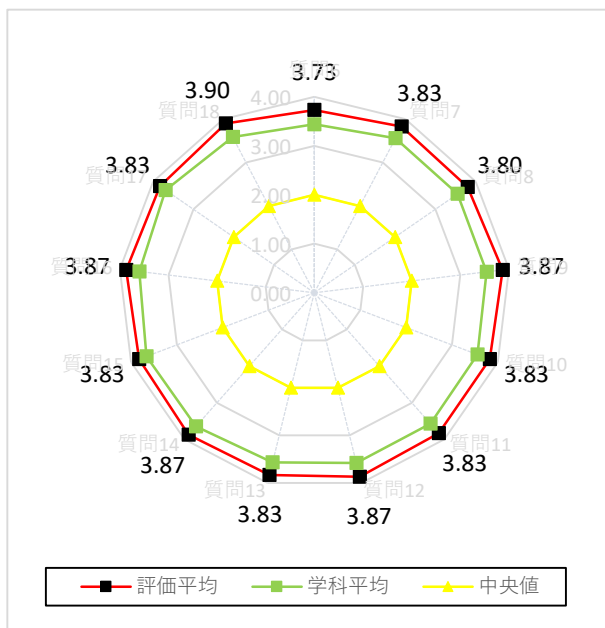
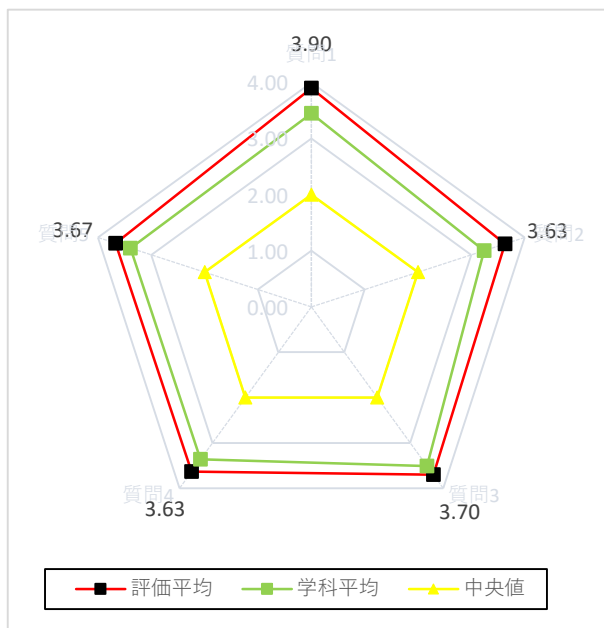
特段なし。

・ 授業評価そのものに対する意見を含んでも可

授業終了後に確実に授業評価を実施する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護診断論	100名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

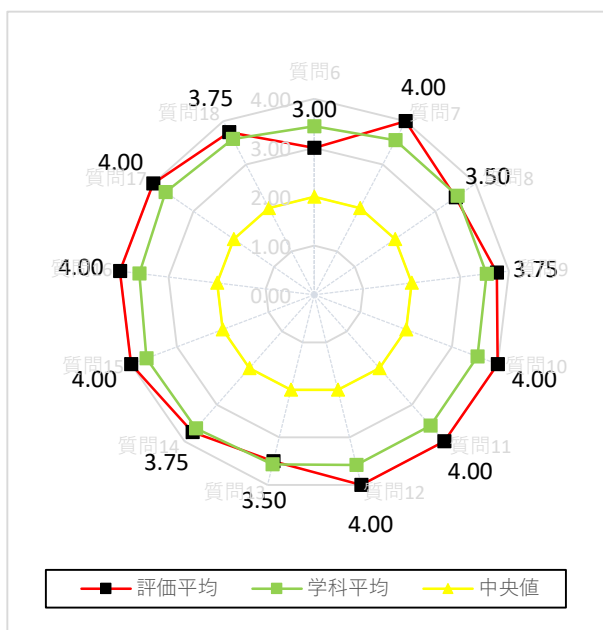
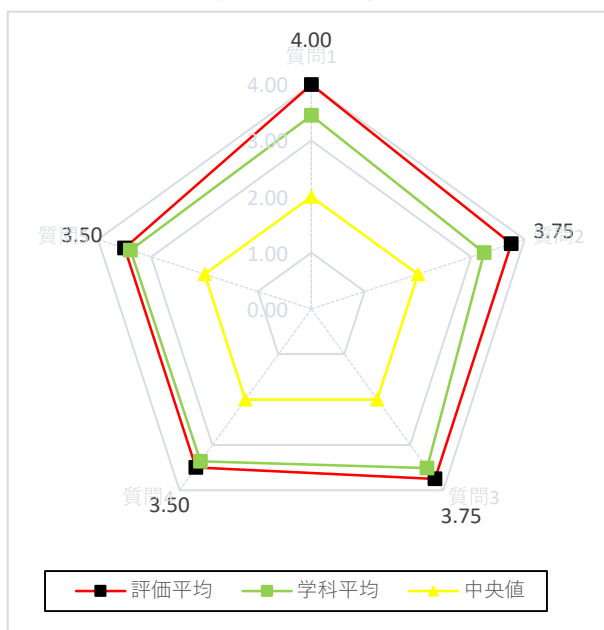
- ・ 学科平均との比較（共通教育科目については共通教育科目全体平均との比較）
回答率30%ではあったが、回答者の評価平均はいずれも平均より高い結果であった。
- ・ 特に低（高）い項目についての考察
特に低い項目は、学生にとっての新たな知見、文章の読み込みと解釈が必要な単元であり、学生の苦手意識が高かったものとする。
- ・ 自由記述についての分析と評価
1名からの回答があり、内容からは講義内容の創意工夫により理解が進んだとの評価が得られた。
- ・ 本授業の目標、ねらいと照らし合わせた分析と評価
概ね目標・ねらいの到達に至っていると考える。
- ・ 授業全般に対する反省点
5限目の講義であり、一部の学生からは早く帰りたいとの要望が、一方では、個人的な理由で授業時間を減らすことをしないでほしいという意見があり、後者の意見を尊重した。
- ・ 回答率が低かった理由 など
授業評価のアナウンスが十分でなかったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ (1) の授業評価結果で特に低かった項目に対する改善方法
専門的な解釈や言葉遣いについては、学生の理解度に応じて進めていく必要がある。
- ・ (2) の授業全般の反省点に対する取り組み方法
講義時間を遵守し、学生の精神的・身体的負担の軽減につなげる。
- ・ 令和5年度に新たに導入したいと思っている授業方法 など
次年度以降は選択科目になるため、選択の是非について周知する。
- ・ 授業評価そのものに対する意見を含んでも可
授業評価については、最終講義にて実施するよう意識する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		成人看護学実習 I	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

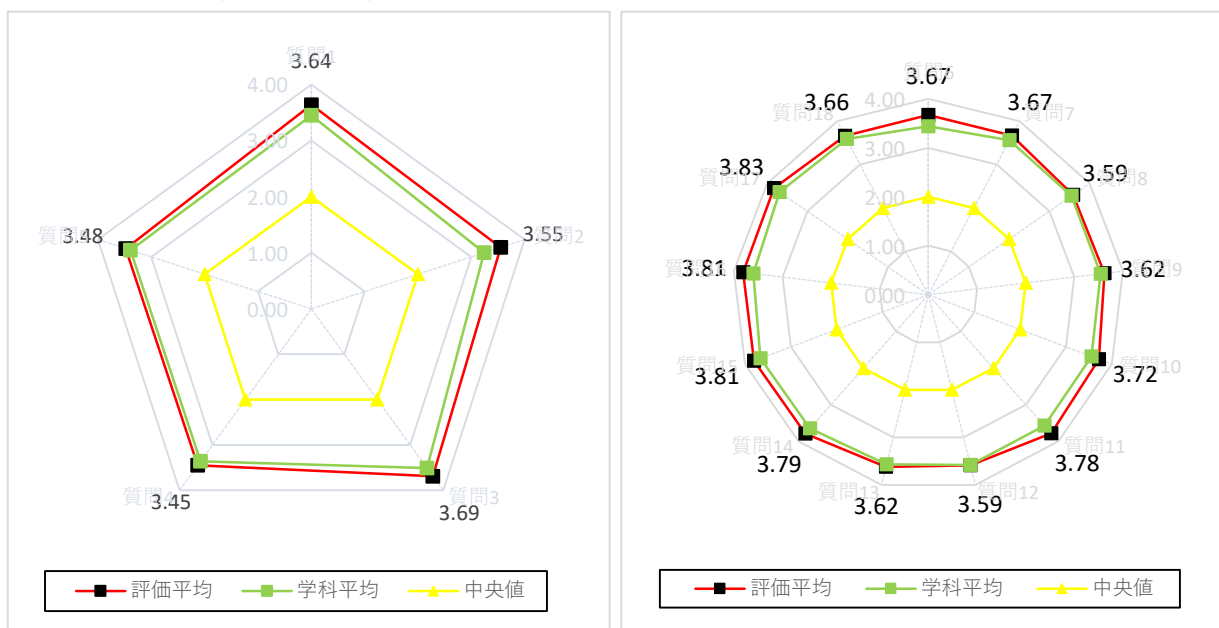
- ・ 学科平均との比較（共通教育科目については共通教育科目全体平均との比較）
概ね全体平均と変わらなかった。
- ・ 特に低（高）い項目についての考察
シラバスの説明をしたが、「説明を受けていない」との回答が目立った。
- ・ 自由記述についての分析と評価
記載はなかった。
- ・ 本授業の目標、ねらいと照らし合わせた分析と評価
今回の結果では、概ね到達できたと考える。
- ・ 授業全般に対する反省点
教員間での指導内容に係る共有事項等が十分ではなかった可能性がある。
- ・ 回答率が低かった理由 など
4名だけの回答であり、実習終了後の授業評価の周知が十分ではなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ (1)の授業評価結果で特に低かった項目に対する改善方法
今後はシラバスとともに、実習要領の説明と理解を徹底する必要がある。
- ・ (2)の授業全般の反省点に対する取り組み方法
複数の教員が担当するため、職位や立場で指導内容が異ならないよう、共通認識を図る。
- ・ 令和5年度に新たに導入したいと思っている授業方法 など
学生の理解度や学修進度に応じた個別対応
- ・ 授業評価そのものに対する意見を含んでも可
実習終了後の授業評価の実施と徹底

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		老年看護学概論	104名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1～19の総合評価は 3.66 ± 0.51 であった。学生の授業参加度は $3.45 \sim 3.64$ であるが、授業のすすめ方や方法についての評価は $3.59 \sim 3.83$ と評価は高かった。

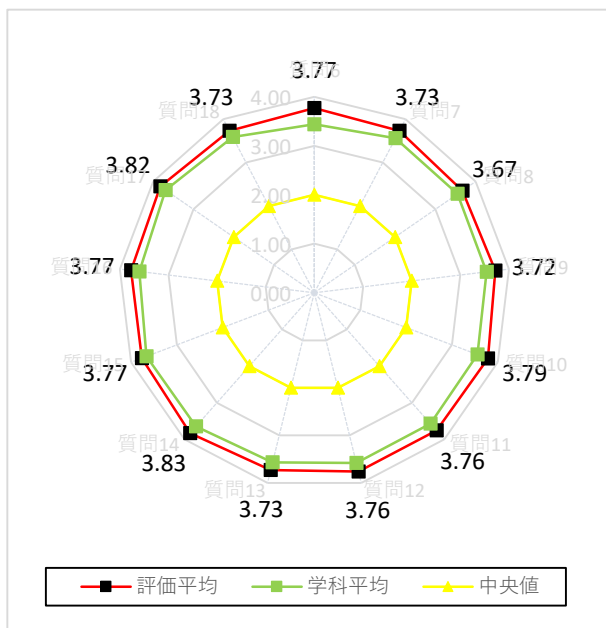
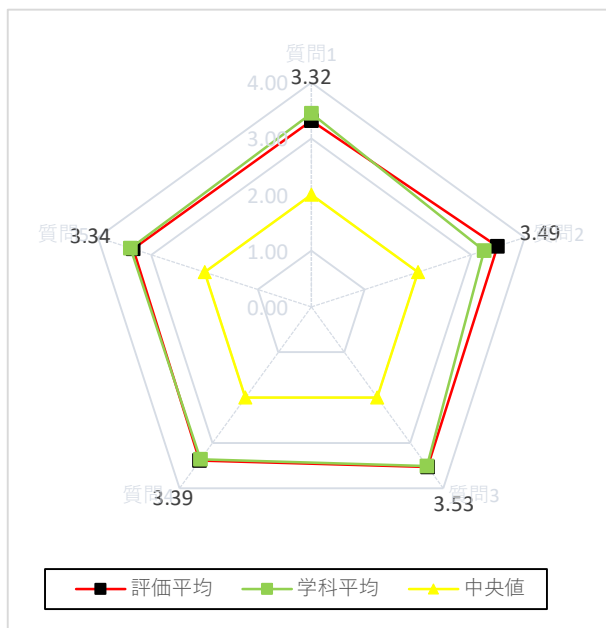
高齢者の理解を深めるための演習として、高齢者模擬体験や地域の高齢者との交流を組み合わせた演習は、実際に体験することで学びが実感できて効果があったという意見があり効果的だった。テキストや資料等の内容だけでは、保健の動向や介護保険の制度などはやや理解しづらい点があったようだ。この他、人権擁護についての学修は倫理的感性の重要性の理解と対応策について徐々に理解していった。授業内容の順序性などを段階的に工夫し理解しやすくしたが、量としては多くなっていたので、時間の調整や内容の絞り込みをした方がよいと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

やや点数が低い項目で、興味関心が持てる工夫にするためには、保健の動向や介護保険の制度などはやや理解しづらい点もあるため、主体的な学びができよう、事例の設定を行い、家族の立場で調べて、説明できるように実際に説明する場面を設ける等の工夫も必要と思う。また、資料のみでなく、DVD等の映像を使用し、興味・関心を高めるような工夫を検討したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		老年看護学方法論	100名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

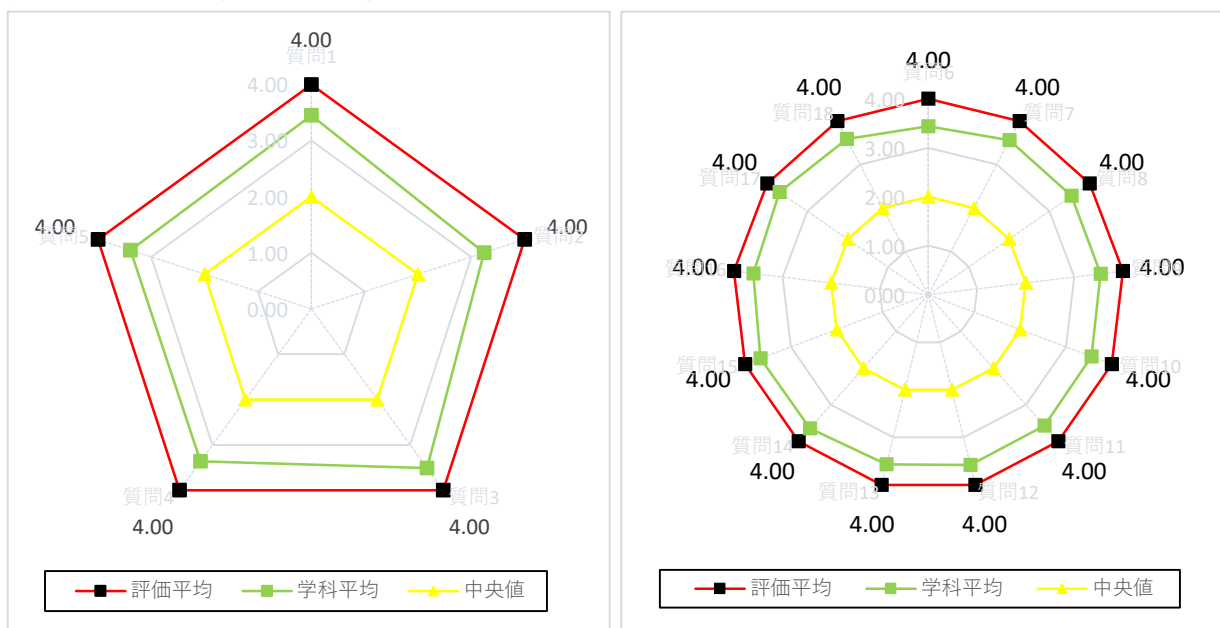
授業評価アンケートの回答率は96.0%であった。質問6から質問18はすべての項目で学科平均値を上回っており、概ね学生のニーズに対応した授業であったと言える。一方で、学生自身の授業参加態度の評価である質問1から質問5は学科平均値を下回っていた。講義形式が多く、2コマ続きで開講しているため集中して取り組むことが難しかったことが要因と推察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

演習コマの見直しおよび、ICTを活用したインタラクティブな科目展開を行えるように工夫していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		老年看護学実習	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

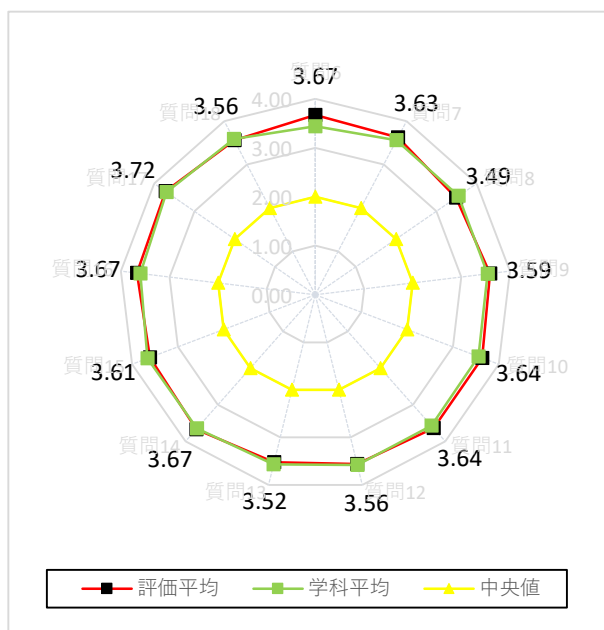
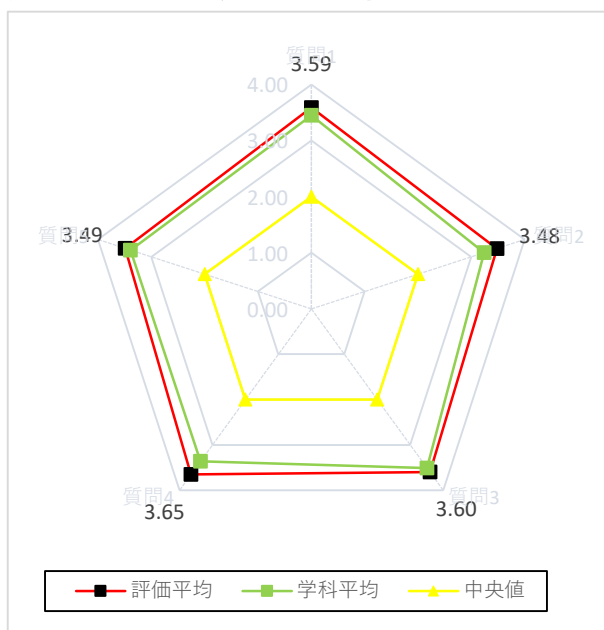
コロナの影響で学内実習の代替実習も半分くらい行ったが、模擬患者活用のロールプレイを行い、録画再生による振り返りは効果的で目標達成につながった。また、地域の公民館での地域高齢者対象のアクティビティケアや健康指導等ができ、高齢者の反応がとらえられて非常に良かった。臨地実習では、病院・施設での実習で半分以上は経験できたが、やはり、実際の対象者に対しての看護展開ができ、満足感と学びが深まった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後は、コロナ禍であっても対応力のある工夫で実習目標を達成できる方法は確立できてきたが、臨地実習では経験できない高齢者の変化の学びができるよう、病院等の現場の指導者と検討・調整を重ねていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		医療安全管理論	107名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答者は107名中75名(回答率70%)であった。

全項目の平均点は3.60(±0.59)であった。

学生の参加態度は学科平均値を上回るかほぼ同程度の評価となっており、能動的な授業参加ができていたと評価する。一方で授業方法に関する項目については学科平均と同程度かわずかに下回る評価となっていた。しかし3,4と回答した学生が全項目で90%を超えており、突出して低い評価はなかった。

本授業は医療の現場を全く知らない(臨地実習を経験していない)1年生に対して「医療安全管理」について教授するものであり、医療の現場で起こる危険についてイメージができ、医療安全にかかわる看護職者の役割を考えられるように授業内容も工夫したが、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていた」に対する評価は学科平均を0.1下回っていた。

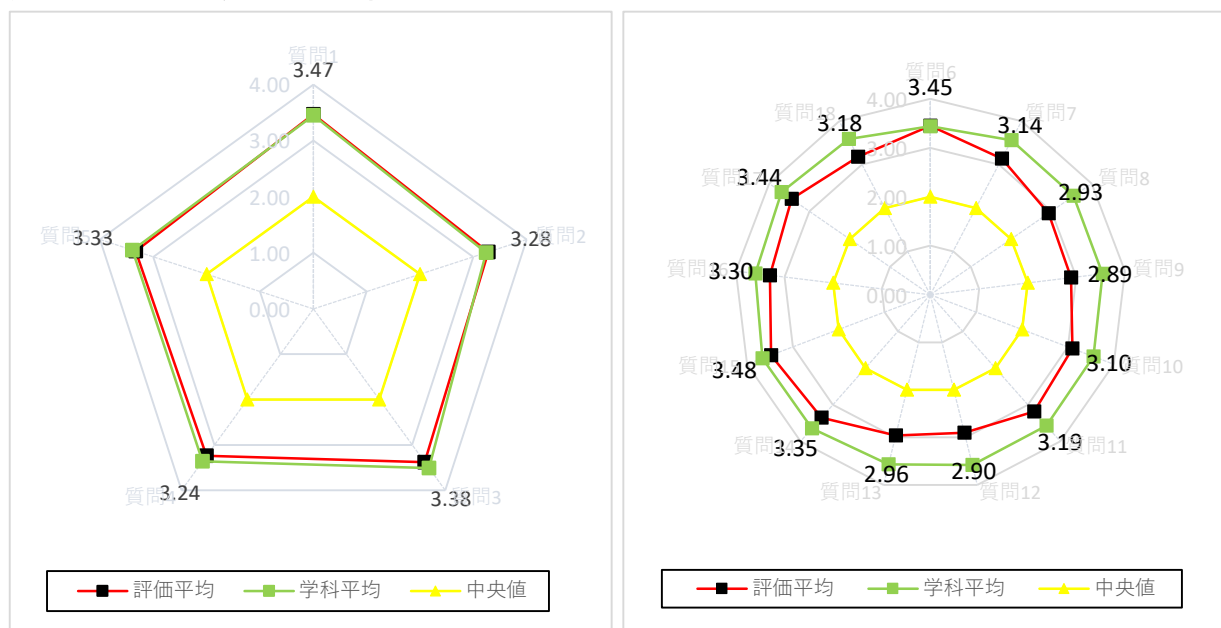
COVID-19感染対策として、グループワークを避け、隣の学生と前を向いたまま2,3人でセッションし、KYT(危険予知トレーニング)やSBARを行った。自由記入に複数の学生が「視点が広がった」「チームで協働する意味が分かった」と回答し、医療現場のイメージ化につながっていたと評価する。

(3) 次年度に向けての取り組み

結果の分析にも書いたように、医療現場でどのような危険があるのかをイメージさせ、看護職を目指す看護学生としてどのような配慮や注意が必要なのかを考えさせるための授業内容と方法の検討が課題である。臨地実習前に「心がまえ」を持つことができるように、視聴覚教材やロールプレイなどを援用していきたい。8コマ1単位の短い時間の中でもアクティブラーニングを活用して、ダイナミックな授業展開に取り組む。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		精神看護学概論	104名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

シラバスを作成する段階で、内容の選択と、どのレベルまで伝えるかが明確でない部分があった。そのため、講義の内容については、途中で内容を追加することになり、変更についての説明については何度か説明したが、学生には十分に伝わっていないということが分かった。

また、内容が分かりづらいと感じていた学生もいたと分かった。重要な箇所については繰り返し説明する必要がある。

レポート課題と方法については、十分に伝わっておらず、他の方法での講義がよかったという自由回答があり、更なる明確な説明と提示が必要である。

教員の声が聴きとりづらいことは、以前より自覚しており、講義途中で確認したり、伝え直すなどの工夫はしてきたが、更に工夫が必要である。

一方で、学生の質問1から5までは、高評価であるが、講義態度や工夫について、教員側からは自己評価の高さを感じる。知識を問う試験の結果やレポートの内容についても説明を十分に聴いてもらえていないと感じる。講義中、内容について何度も確認するが、質問する学生は1~2名であった。受動的な部分を強く感じる、学生の興味が湧き、主体的に講義に取り組める内容への工夫が必須である。

(3) 次年度に向けての取り組み

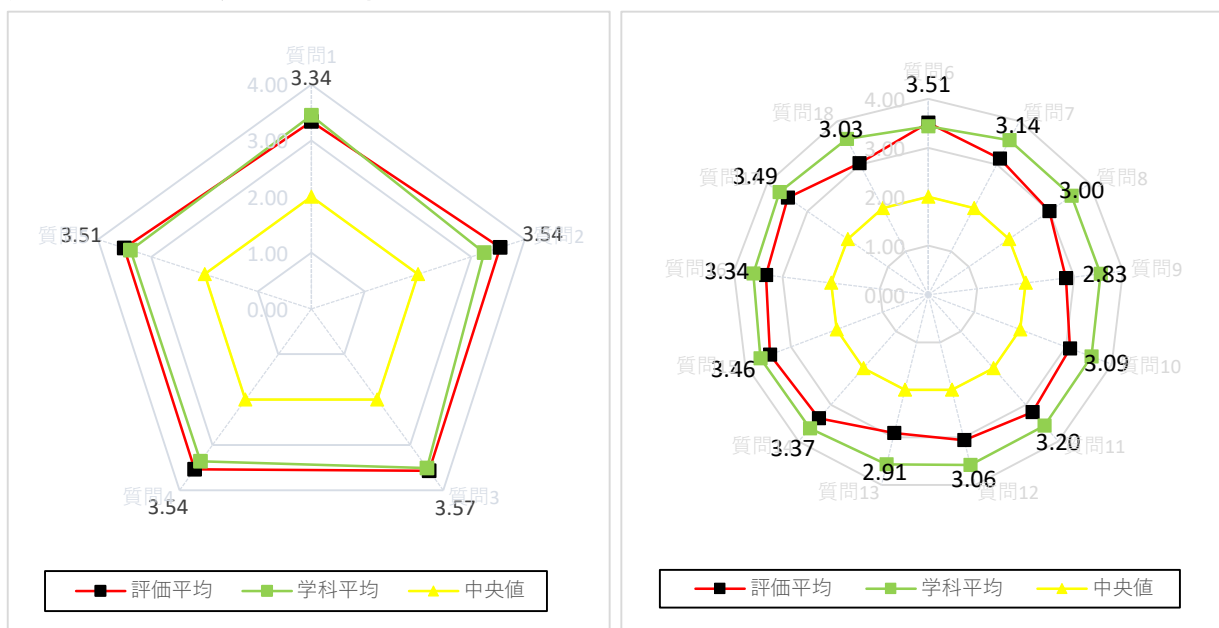
今回のシラバスでは、更に講義のタイトルが変更しているため、特に遠きおよび福祉の分野をどのように入れていくかについて現在も検討中である。そのため、講義の内容については、講義冒頭で明確に説明しながら、変更が生じた場合は早い段階で明確に伝える必要がある。

レポート課題と方法については、十分に伝わっていないことが分かった。

講義中に、教員の声が聴きとりづらいということは、更に講義途中で確認する必要を自覚している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		精神看護学方法論	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

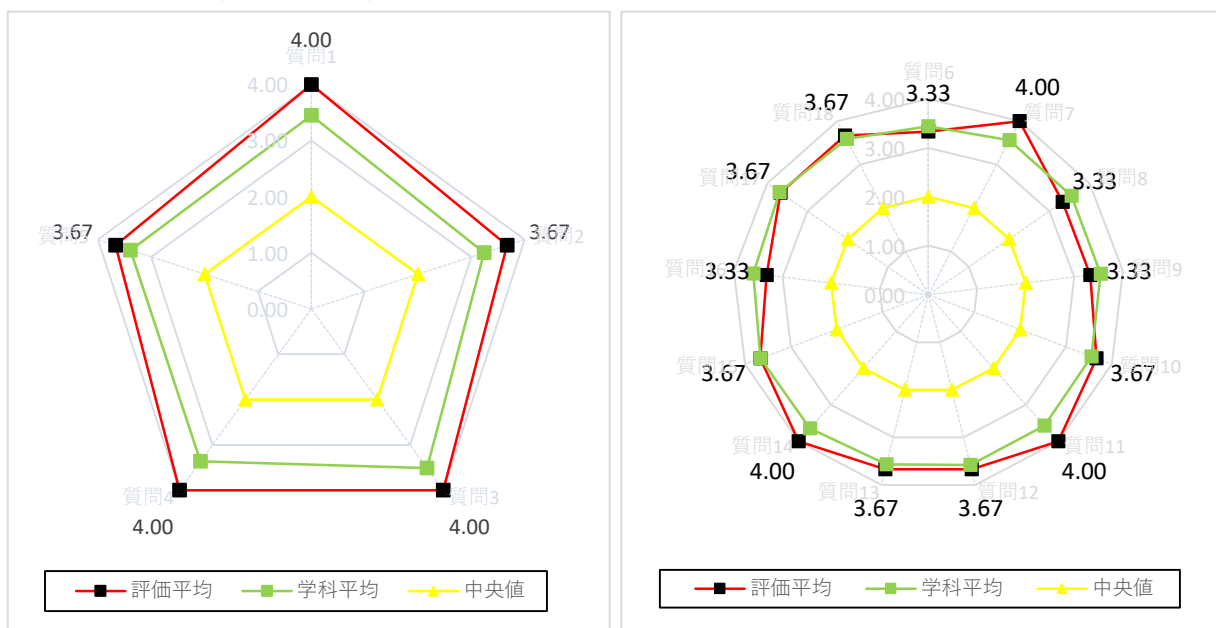
シラバスを作成する段階で、内容の選択と、どのレベルまで伝えるかが明確でない部分があった。そのため、講義の内容については、途中で内容を追加、修正することになった。後期に実施した精神看護学実習において、本講義が十分に伝わっておらず、効果的な実習に貢献できていないことを多々感じるところがあった。学生が実習で効果的に活用することを再検討する部分をいくつかピックアップしている。一方で、学生の質問1から5までは、高評価であるが、講義態度や工夫について、教員側からは自己評価の高さを感じる。学生が主体的に講義・演習に参加し、効果的な知識や思考過程を活用した演習について、更に工夫する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回のシラバスでは、上記のように後期の「精神看護学実習」で対象者に看護を実践する際、知識や思考過程をどのように活用して看護を実践するのかをイメージできるような講義の工夫を入れ込んでみた。重要な箇所については、繰り返し「例」を示した説明を入れ込んでいく。今年は教員一人で83人の講義・演習には限界があった。看護はひとり一人個別の援助であるにも関わらず、学生個別の疑問に殆ど対応出来ない苦しさがあった。次年度は教員2人体制である。今回の分析を共有していただき、学生個別の反応を可能な限りではあるが、確認しながら、講義・演習を進めていく。より主体的な学習に繋がるよう重要な部分を繰り返し伝達し、学生自身が自分の個性を生かすことが出来るような講義、演習を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		精神看護学実習	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

シラバスを作成する段階で、内容の選択と、どのレベルまで伝えるかが明確でない部分があった。そのため、講義の内容については、途中で内容を追加、修正することになった。応援に入ってくださいの教員の力を一部お借りすることは出来たが、83人の学生が実習において、患者を受持ち看護を実践するのに、迷い、悩んでいる状況に対応しきれなかった。前期の精神看護学方法論で学んだことを復習しながら、学生個々が患者への看護、実習体験に生かしていく方法に丁寧に対応できず苦しんでいた。今後、簡素化した方程式のような知識、思考過程の活用方法を繰り返し説明し、更には患者個々の繊細な配慮について、学生個々に行き届く指導、環境づくりが課題である。

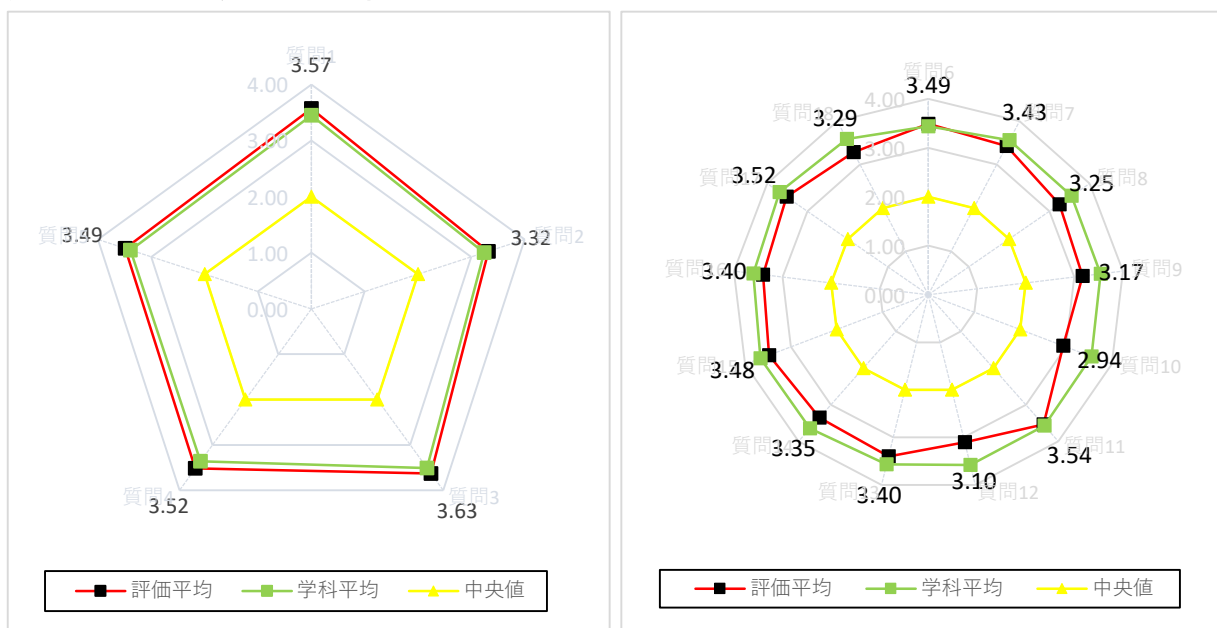
一方で、学生の質問1から5までは、高評価であるが、講義態度や工夫について、教員側からは自己評価の高さを感じる。学生が主体的に実習に取組み、看護の面白さを実感してもらえる工夫が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回のシラバスでは、上記のように前期の「精神看護学方法論」での講義を活かせるよう、連動したシラバスの構想が必要であり、工夫している。対象者に看護を実践する際、知識や思考過程をどのように活用して看護を実践するのか、「精神看護学方法論」の学習や演習を想起できるような組み立てが必要である。次年度は教員2人体制である。今回の分析を共有していただき、学生個別の反応を可能な限りではあるが、確認しながら、患者の個別な看護に繋がるような実習指導、環境の工夫と施設へのご協力をお願いし強化する。精神に障害を持たれた方への看護実習は学生のストレスも強くなりがちである。それらへのケアにも取り組んでいく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		母性看護学概論	100名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

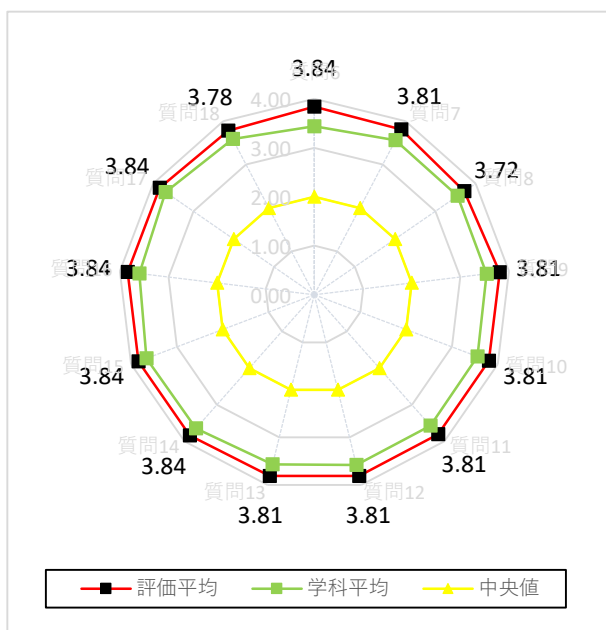
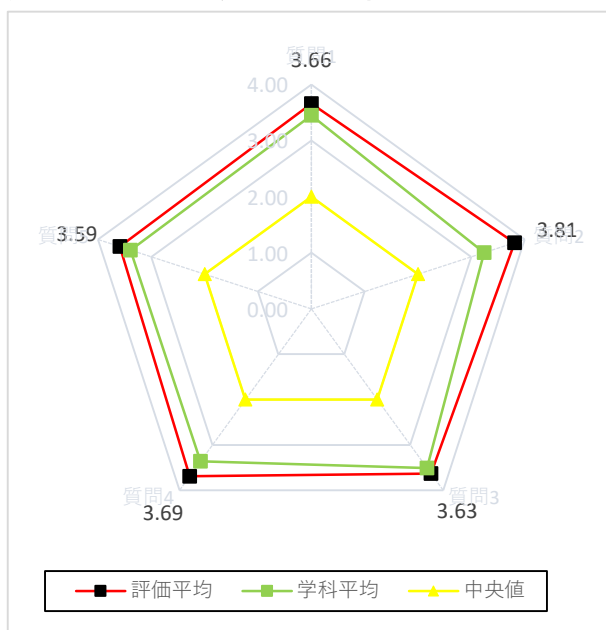
質問10と12の項目の得点が低い結果になりました。改善が必要と考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

視聴覚機器の扱いに慣れず事務の方の応援を呼ぶことが多かったため、その頻度を減らす努力をします。声の大きさ、明瞭さ、話す速度についても改善します。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		母性看護学方法論	83名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

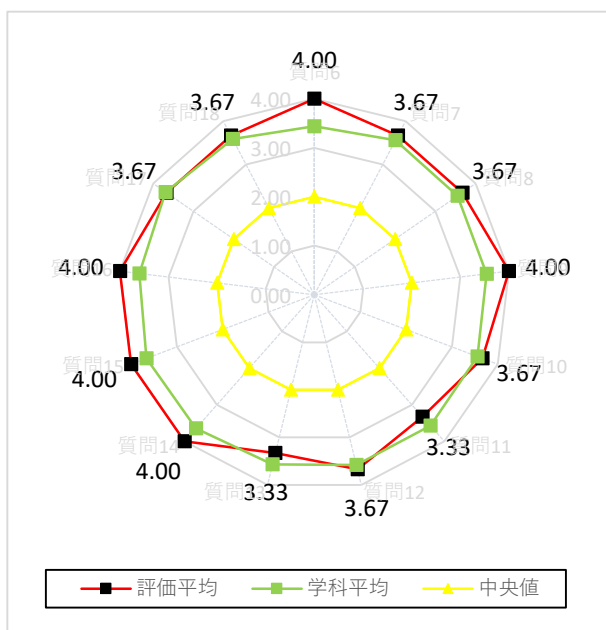
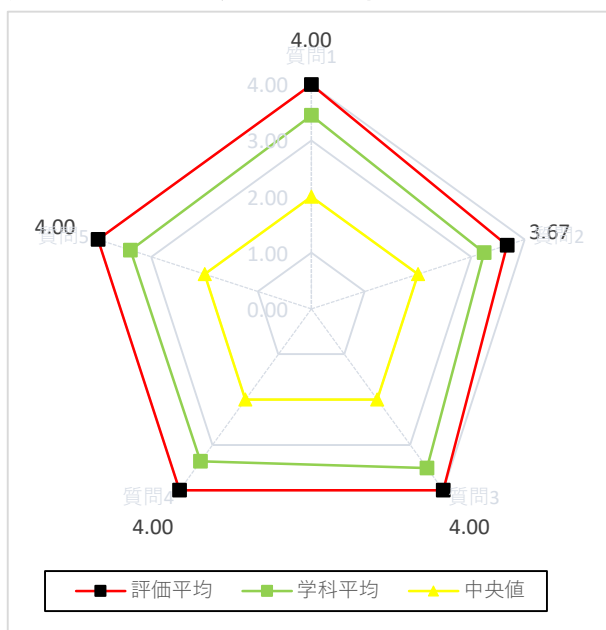
全般に高得点であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生のもっと学びたいという意欲を引き出す努力をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		母性看護学実習	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

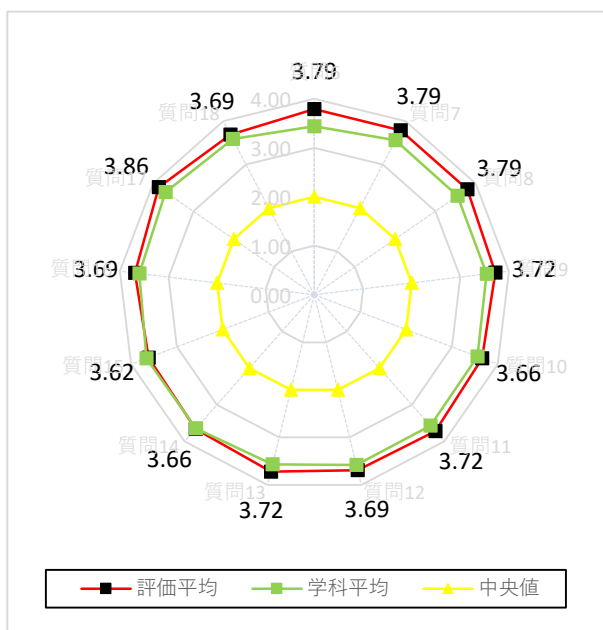
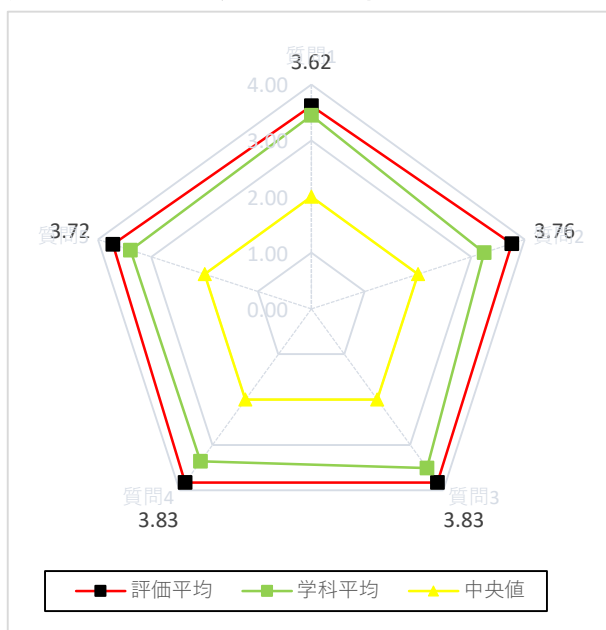
教科書、配布資料等についての項目がやや低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

教科書、配布資料について理解が深まる努力をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		小児看護学方法論	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

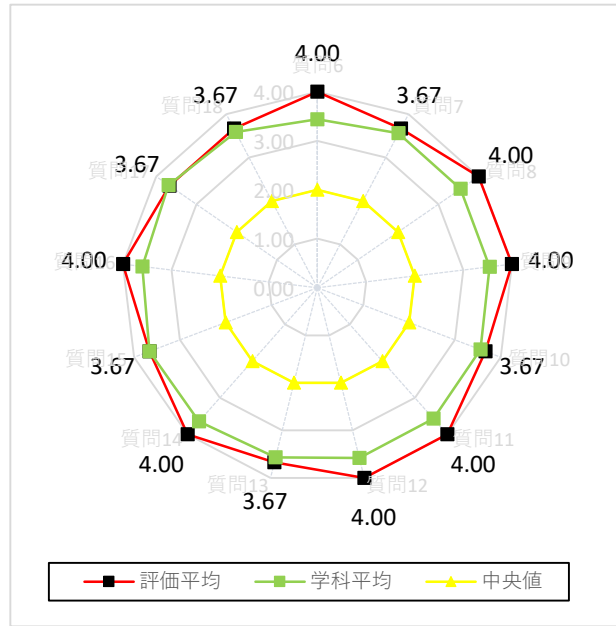
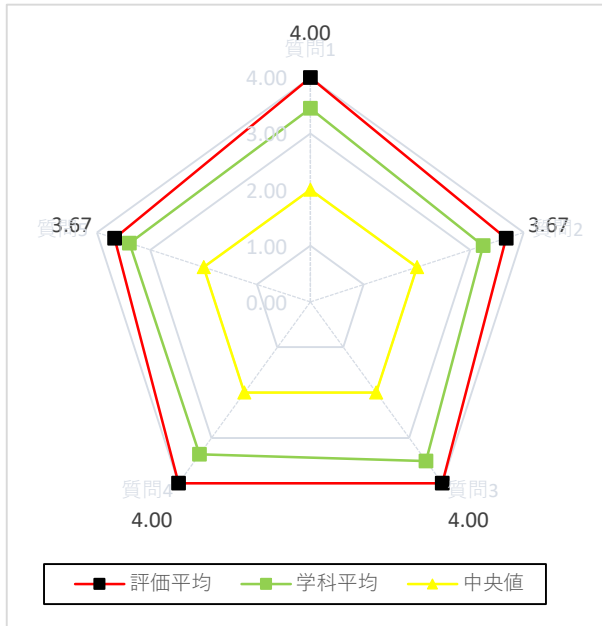
ほとんどの項目で学科平均以上の評価である。学生の質問等に対しての対応が出来ていない部分もあったところが反省点である。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の質問等に対して、リアルタイムに学生にかえしていくことを徹底したい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		小児看護学実習	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

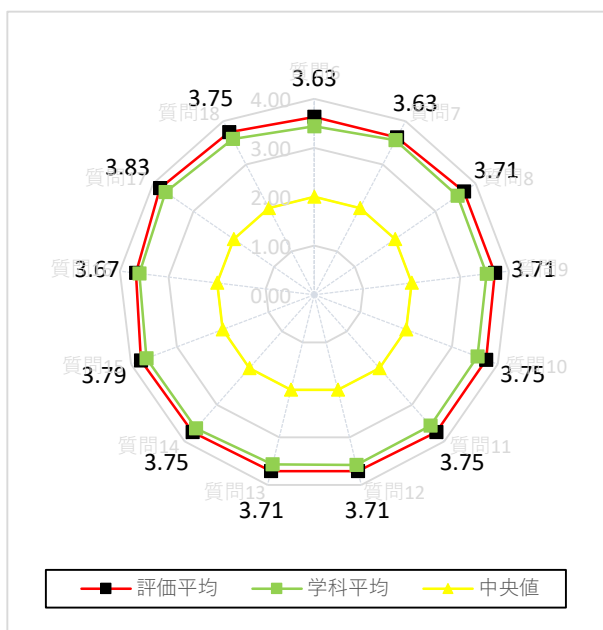
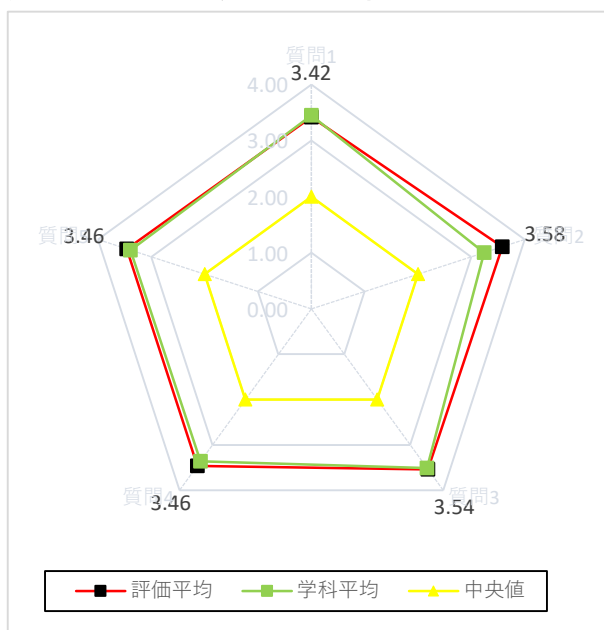
ほとんどの質問内容において学生は高評価である。
 実習に置いて学生個々にレディネスや能力を判断しながらしっかりと対応できたと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生のレディネスを確認しながら丁寧にじっくりと関わっていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		関連職種連携論	100名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

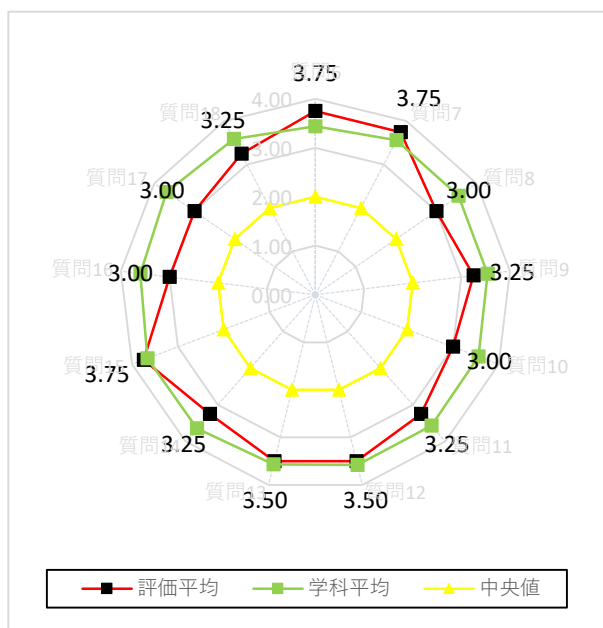
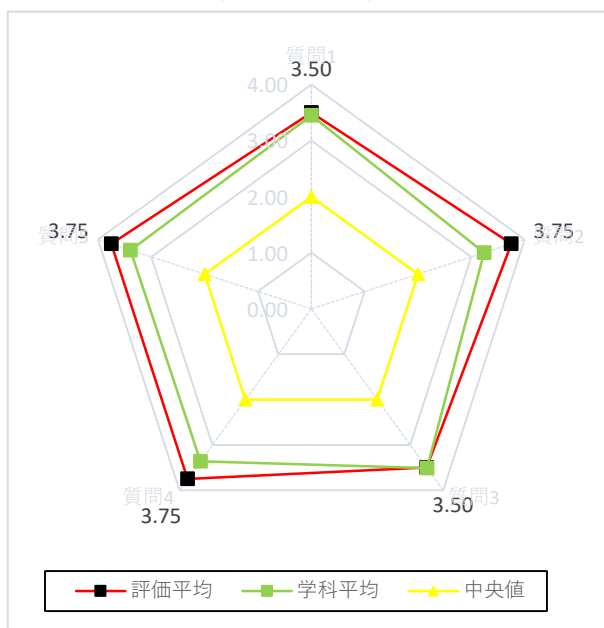
1コマのみの担当ではあったが、講義と事例のケア計画までをレポート課題としたが、よく考えてレポートを書いていたが、記述された回答内容は具体性に欠けていたのでイメージ化がまだ弱かったと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後はもう少し具体的な事例を提示し、その内容の解決策をグループで意見交換し、具体策が出てくるよう、時間をもっととって、解決策を深められるように主体的な動きが出せるよう工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		関連職種連携演習	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

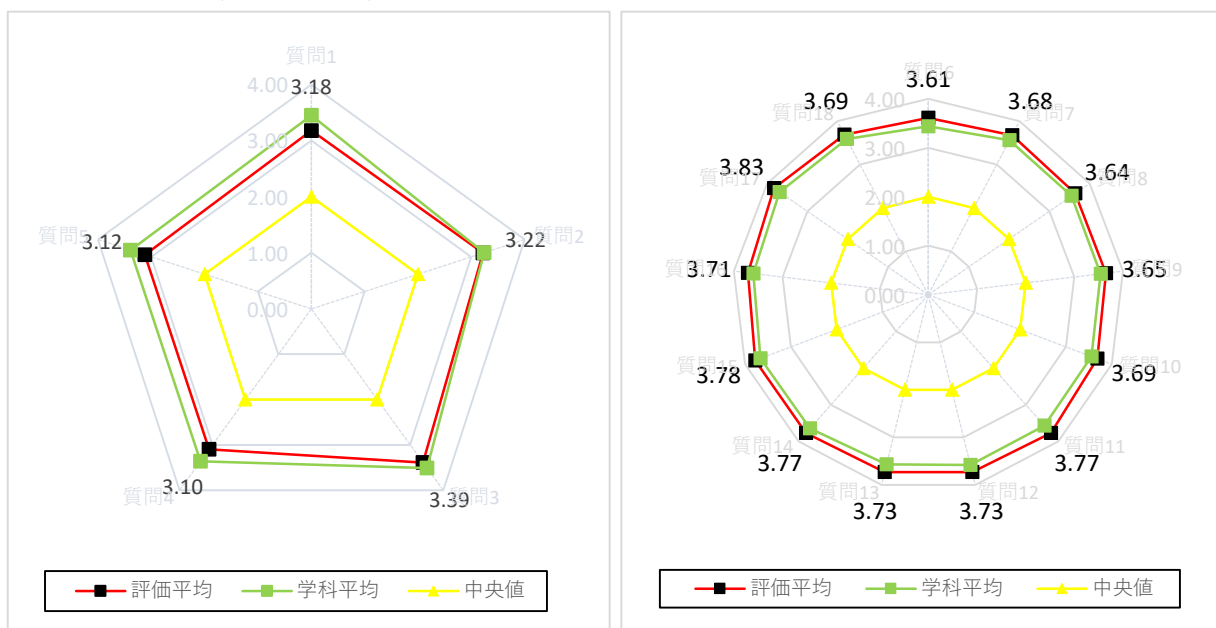
17項目目が特に評価が低く、改善が必要。

(3) 次年度に向けての取り組み

Zoomでのグループワークについての教員のかかわり方が困難である。教員の意欲を伝える工夫を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		家族看護学	85名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

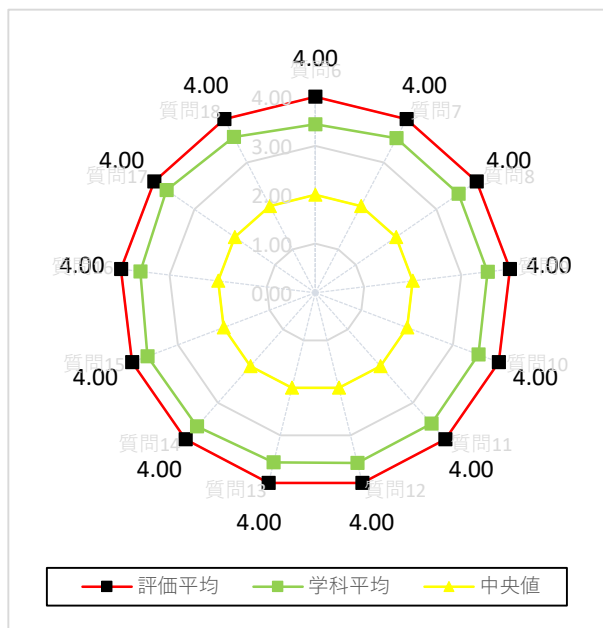
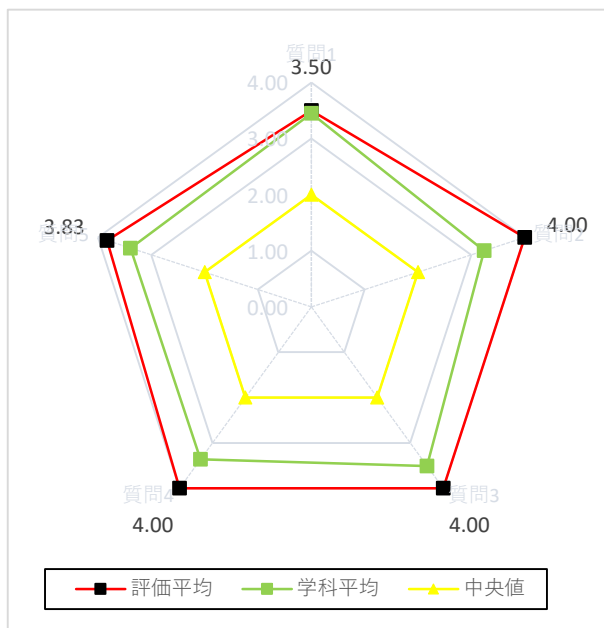
(質問1～5)の授業に対する学生の授業参加態度は、平均3.4～3.7であった。前半は講義中心で進めていったため学生が受け身の姿勢だったことが要因と考えられる。後半の演習では積極的に質問する姿や活発な意見交換がみられたため、前半にもアクティブラーニングを随所に取り入れるなど、学生が主体的に取り組めるよう授業計画を見直していく。(質問6～13)では、3-4を選ぶ学生が90%以上おり、講義内容・方法への学生の満足度は高いと評価できる。テキストのみでなく、配布資料やDVDなど理解のしやすさや興味関心を引く媒体を工夫して用いたことが評価されたと考える。(質問14～17)では、3-4を選ぶ学生が90%以上おり、教員の対応への満足度は高い。演習やグループワークでは、講義室内を巡回し個別に質問を受けたり、適宜全体に説明やヒントとなるコメントを追加するなど、学生の進捗や理解度に合わせ、教授方法を工夫したためと考える。総合評価(質問18)では、4を選択した学生が71.6%、3を選んだ学生が26%であり、満足度は高い。その他、自由記載等の内容からも、本講義の目的にあった内容の講義が出来たと評価する。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスと照らし、現在の達成状況や進捗を示すことにより、学修の目標を意識し自律性の高い意欲を向上させることができると考える。また、学習目標を見直し、より現実的・測定可能・測定可能なものとし、学生が理解しやすいよう工夫する。前半の講義中心の授業のなかでも話し合いの時間や発表の場を設け、交流や協力など協同学習の技法を積極的に取り入れ、学生の主体性を育てていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護管理学	88名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

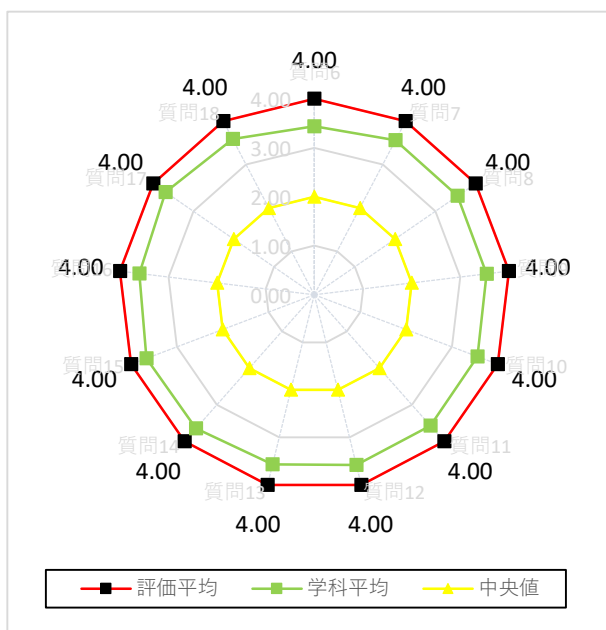
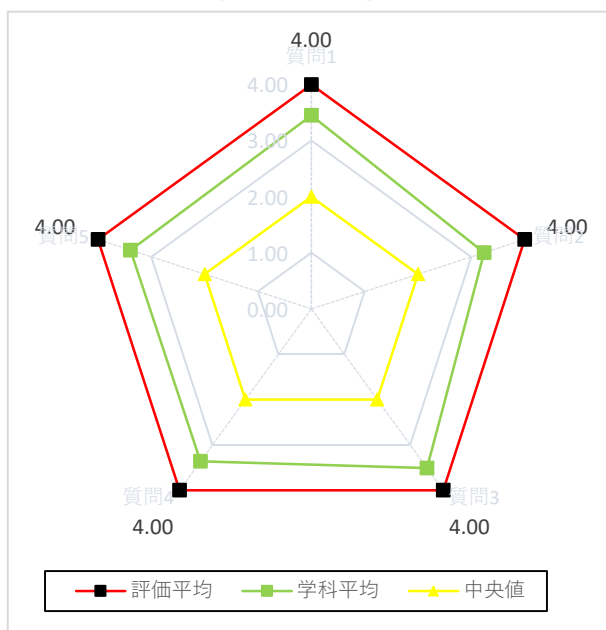
回答者は88人中6人(回答率6.8%)であった。失格者はない。
 全項目の評価平均は3.97(±0.29)であり学科平均を上回っているが、回答率が低く評価には偏りがあることを前提として評価を行った。
 前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの全ての講義を対面で行った。なお、感染者や濃厚接触者の学生には症状がない場合に限り、Zoomによるハイブリッド、または録画した映像をYouTubeにUPし限定で公開して受講するよう工夫した。
 4年次の集中講義であり、短期間に15回の講義、1日2コマ続きの授業、1週間4コマの授業は、学生の集中力の継続と期間をあげず実施される授業内容の理解を必要としており、負担が大きいと考えられる。そのような中でも質問1～質問5においては学年平均を上回っており、回答した学生は能動的な授業参加ができていたと評価する。
 授業方法に関する項目については全部4と回答しており、偏りがあるという程度ではなく、明らかに正確なデータとは言い難い。
 しかしながら、前年度の評価で課題としていた「シラバスについて説明がありましたか」は改善できた。

(3) 次年度に向けての取り組み

まずは回答率をあげる必要がある。
 今回はデータの偏りが大きく、評価として活用は出来かねる。
 学生はこの授業が修了したらすぐに実習へ行ったり、就職活動中であったりというような時間的、精神的に余裕がない時期でもあるので、講義の終了時に声をかけるなど授業評価への協力を積極的に実施していなかったことが原因の一つであると考え。負担にならないように配慮しながらも振り返りができるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護管理実習	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

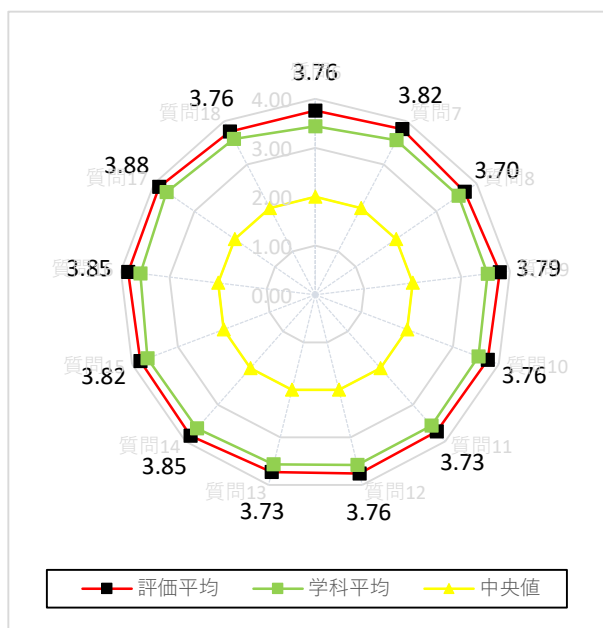
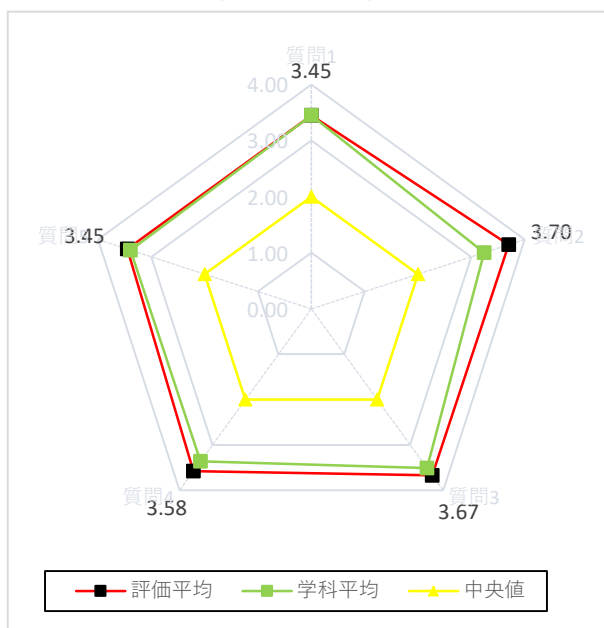
回答者は50名中2名(回答率4%)であった。回答率が低すぎて評価の材料としては不十分なため分析できない。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生への授業評価の協力を呼び掛ける。
実習終了時に各自面接を行っているので、その際に声をかけるなど機会を設けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護研究方法論	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

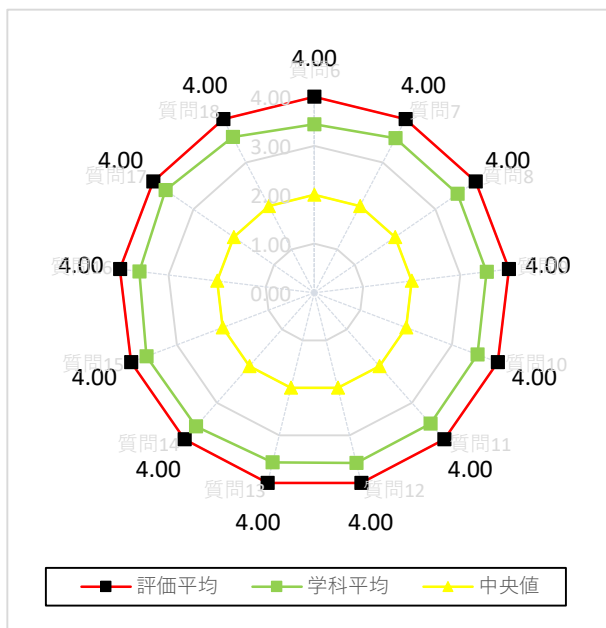
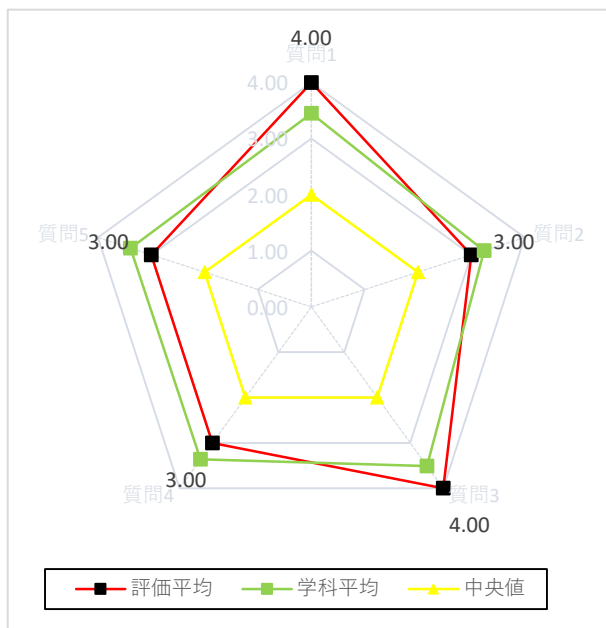
ほとんどの質問内容で学科平均の評価である。

(3) 次年度に向けての取り組み

オムニバス方式の授業であるため、他の先生方の授業内容の確認および情報共有をしながら進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護研究ゼミナール	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

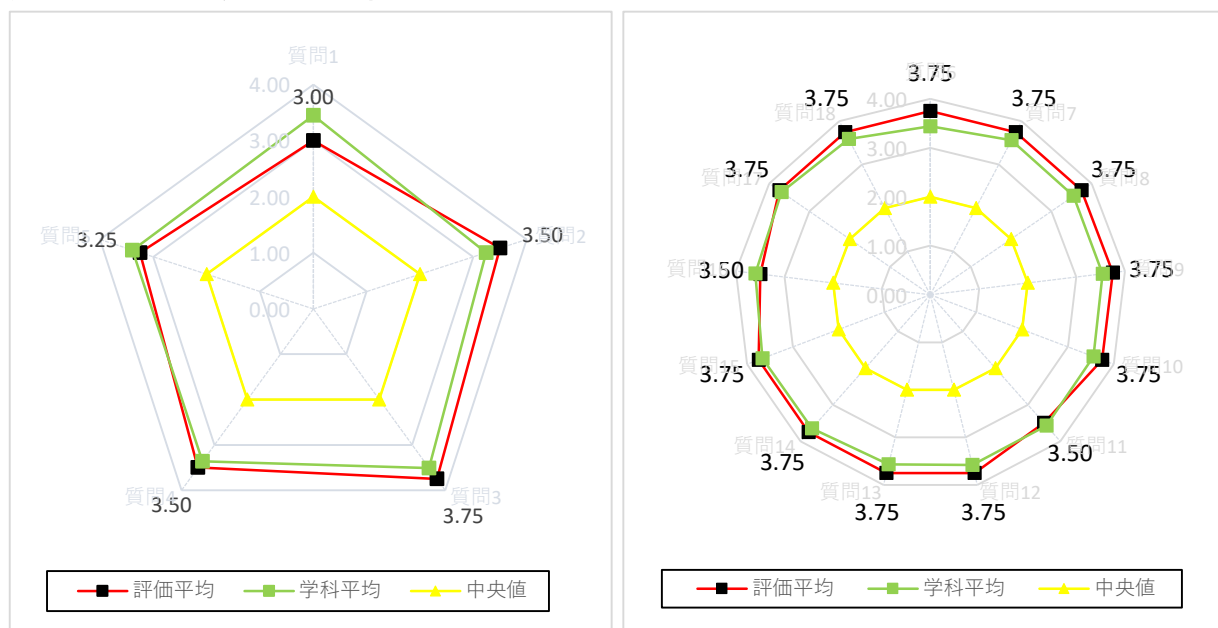
学生自身が工夫するなど学生が主体的に研究に取り組むことが難しかったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が主体的に研究に取り組めるように学生のレディネスを確認しながら関わっていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護研究ゼミナール	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、看護学科にて卒業要件に係る必修科目である。担当学生の4年生前期は、教育実習（一部学生は後期に実施）の他に、関連職種連携実習や在宅看護実習があり、教員採用試験受験もあり大変忙しい。そのため、教育実習の前に看護研究の必要性や進め方、必要な資料の作成について集団で講義し、7月の教員採用試験後から9月にかけては個別指導を行った。実習期間が様々で、個別に対応を行ったが、授業評価の回収率はなんとか80%に届いた。

今年度もコロナ禍であったが、感染予防に努め対面での授業を行った。学生の授業参加態度の中の質問1が低いのは、個別の指導計画を学生の希望により何回も変更したので、当初の計画とはかなり違っていたので、欠席と勘違いした懸念もある。教員の対応については、概ね高得点（3.75）で、個別に指導日数の確保が大変であり、日数がかかった学生もいたが、授業担当教員としては全ての学生が期限までに完成出来て満足している。

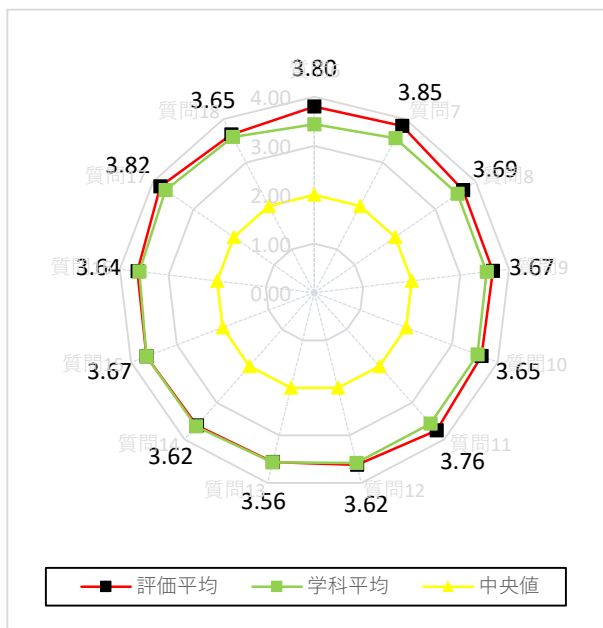
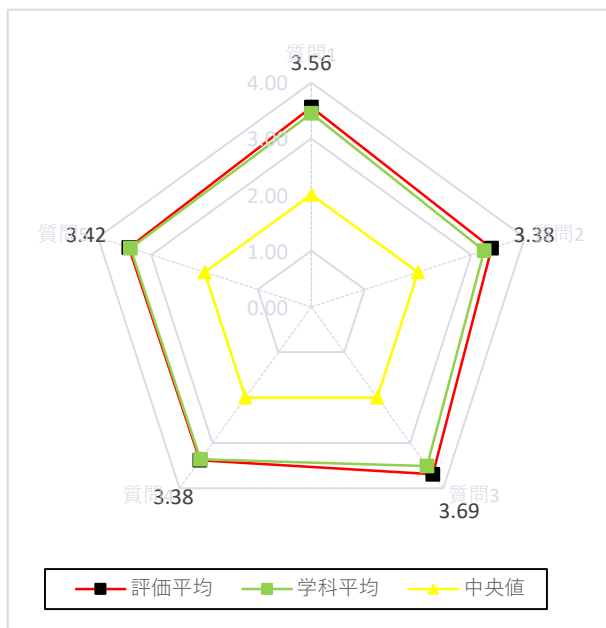
(3) 次年度に向けての取り組み

今後も早めに研究テーマの決定を促し、文献検索や関連論文の読み込み、文献の評価等が進み、論文作成に早く取り掛かれるように、集団及び個別の指導を行ってきたい。

また、授業評価アンケートは、今年度のように授業最終日に入力する時間を取り、学生の授業への取り組みへの振り返りを促していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		学校保健概論	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、看護学科にて保健師課程と教職課程を希望する学生の必修科目である。昨年度に続き、それ以外の学生も多く受講（選択）していた。授業評価の回収率は98%であった。

今年度もコロナ禍であったが、感染予防に努め対面での授業を行った。全般的に高評価（3.6～3.8）を得られているが、特に授業内容や方法（質問6・7、質問11）及び教員の対応（質問17）について、3.8以上の高評価が得られており、授業担当教員としても充実感を感じている。

また、久しぶりにグループワークを行い、授業外レポートを通して、学生が子どもの健康や安全に興味関心を持ち、保健教育や保健管理の実務を学べるように、配付資料や授業内容の精選を行った。

また、保健教育や保健管理の実務について学校現場での様子を多く語った。その結果、学生自身の自己評価も約3.4～3.7と高く、自身の授業への取り組みへの満足度も高かったように思う。

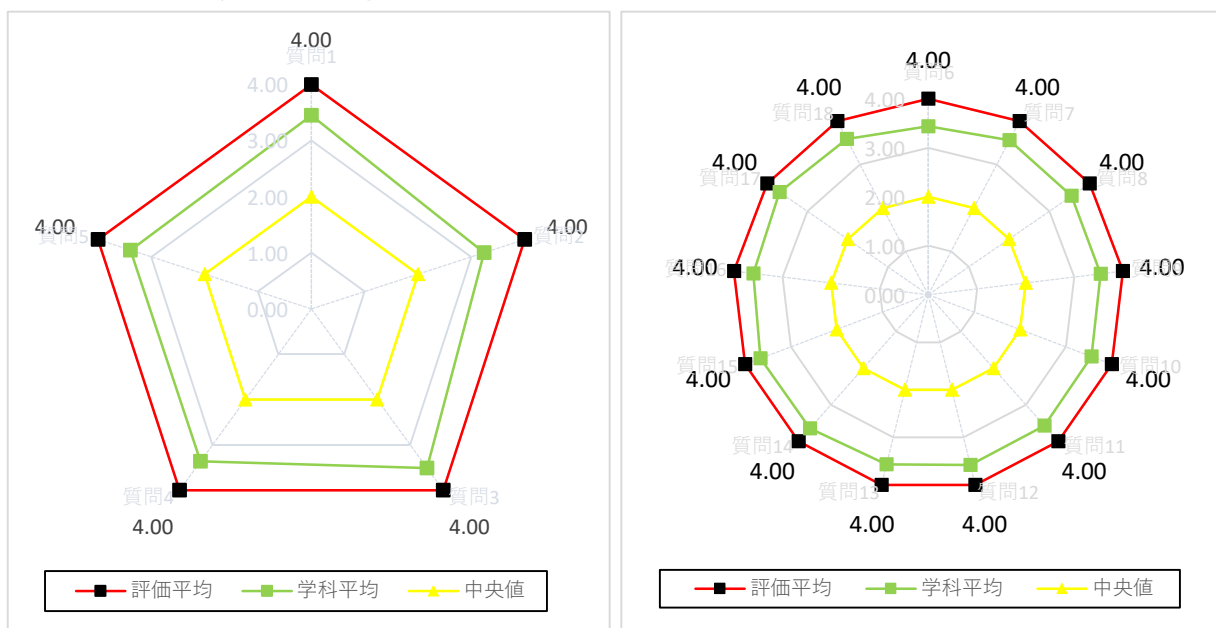
(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、子どもの健康や安全に関する課題（トピックス）を取り上げ、学童期から青年期の児童生徒等の健康や安全、社会の有り様に関心を持つように意識づけていきたい。具体的には、学校保健の3領域の保健教育や保健管理、組織活動の実務や学校保健と地域保健との連携などについて講義や演習を通して学び、また学生間の相互の学びあいが進むように配付資料や授業の内容を検討し、活気のある授業を行っていきたい。

また、授業評価アンケートは、今年度のように授業最終日に入力する時間を取り、学生の授業への取り組みへの振り返りを促していきたい。そして、その結果を見てさらに授業内容の精選も進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		公衆衛生看護学管理論	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

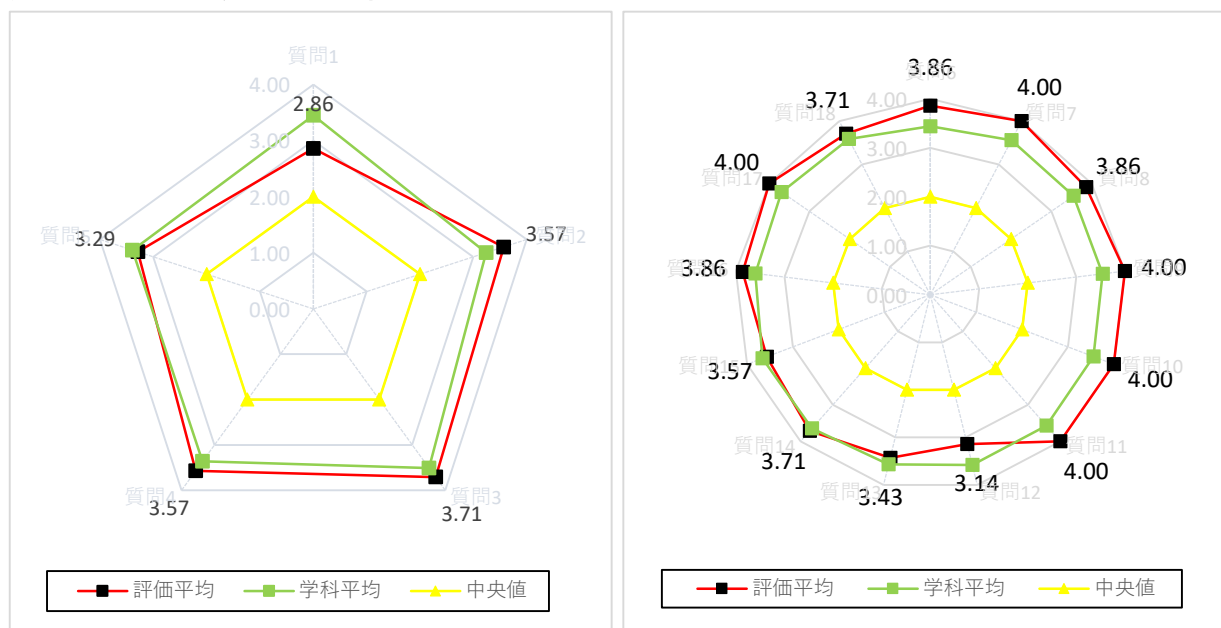
授業評価を行ってくれた学生が全受講生中2名と極端に少なく、学生意見を代表しているとは思いませんが、回答に感謝します。公衆衛生看護学管理論は、4年次後期という時期で、講義や演習また重要な実習も終えて受講するため、公衆衛生看護の総まとめになるような授業となり、学生の理解も深いと思われます。また、国家試験対策を意識して、講義ごとに国家試験出題基準を盛り込んだ課題を出し、小テストなども行いました。また、JICA経験者をゲストスピーカーに迎え、意見交換ができたことも学生、講師双方に好評でした。担当教員の専門分野をオムニバス方式で担当したことも良かったと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の展開に大きな問題や課題もなかったため、講義内容やデータ等には時点修正を加えながら前年度の授業設計を踏襲していきます。担当する教員間の情報交換を密にし、講義内容の重複や漏れなど学生に不利益が生じないように注意していきます。後期の講義ですから、国家試験が目の前にちらつき時期ですが、講義そのものが国家試験対策になりますので、能動的に受講してほしいです。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		養護学概論	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、看護学科にて教職課程を希望する学生の必修科目である。授業評価の回収率は98%であった。

今年度もコロナ禍であったが、感染予防に努め対面での授業を行った。コロナ禍だったこともあり、授業の欠席者が毎回いて残念であった（質問1が低い）。教員お授業に対しては全般的に高評価（質問7・9・10は満点）を得られており、授業担当教員としても充実感を感じている。ただ、質問12が若干低いのは授業内容が多く、やや早口になった可能性が考えられる。今後の反省事項としたい。

久しぶりにグループワークを行い、授業外レポートを通して、また学校現場での様子を多く語り、学生達が養護教諭の職務や学校での役割についてしっかり学び、4年次の教育実習につながるように、配付資料や授業内容の精選を行った。

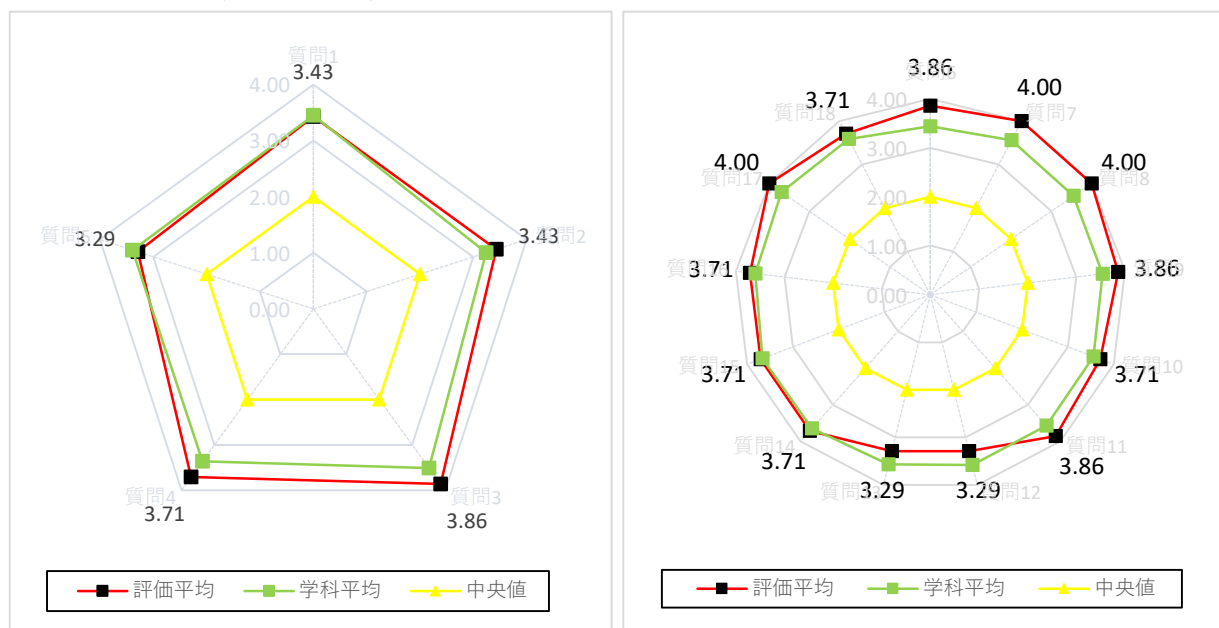
(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、養護教諭の職務に特化した授業の中で、教員採用試験対策を意識した授業を進めていきたい。また、学校保健と地域保健、関係機関との連携などについて講義や演習を通して学び、学生相互の学び合いが進むように配付資料や授業の内容を検討し、活気のある授業を行っていきたい。”

授業評価アンケートは、今年度のように授業最終日に入力する時間を取り、学生の授業への取り組みへの振り返りを促していきたい。そして、その結果を見てさらに授業内容の精選も進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		健康相談論	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、看護学科にて教職課程を希望する学生の必修科目である。授業評価の回収率は100%であった。

今年度もコロナ禍であったが、感染予防に努め対面での授業を行った。学生の授業参加態度は概ね高得点で、教員の授業に対しては全般的に高評価（質問7・8・17は満点）を得られており、授業担当教員としても充実感を感じている。ただ、質問12・13が若干低いのは授業内容が多く、やや早口になった可能性が考えられる。今後の反省事項としたい。

久しぶりに健康相談活動の具体的な場面を通して演習をたくさん行い、子どもの健康や安全、健康課題についての授業外レポートの作成や報告を通して、健康相談についてしっかり学んでくれた。

また学校現場での様子を多く語り、学生達が養護教諭が行う健康相談についてまなび、4年次の教育実習につながるように、配付資料や授業内容の精選を行った。

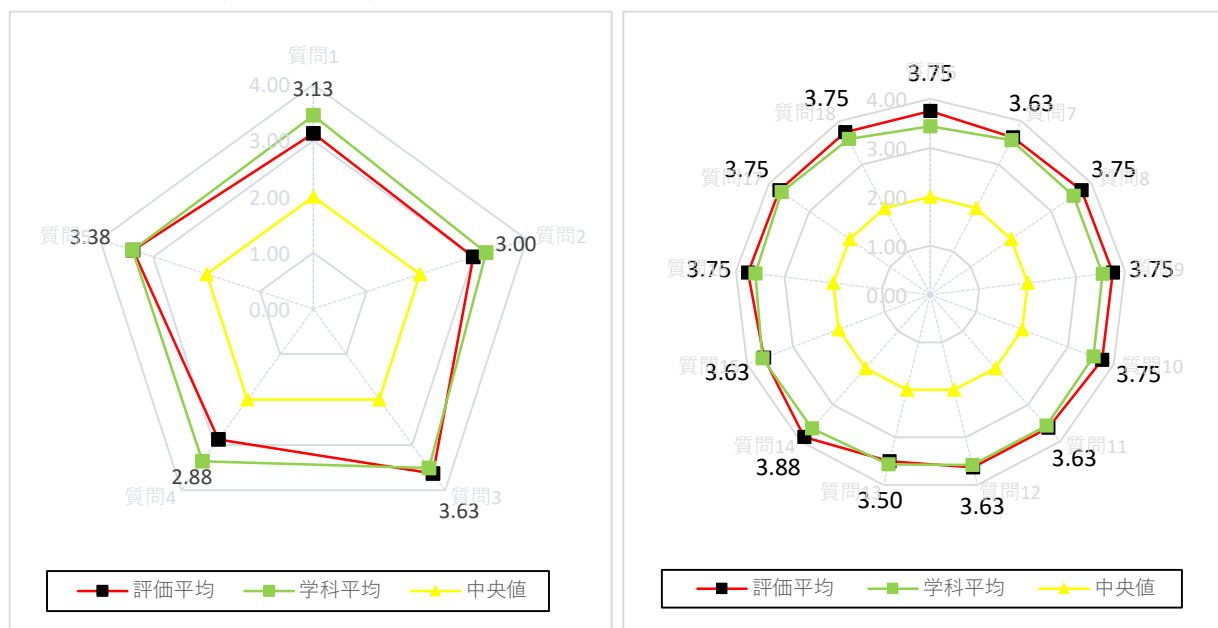
(3) 次年度に向けての取り組み

今後も養護教諭が行う健康相談に特化した授業の中で、教育実習で出会う可能性のある場面設定をして、健康相談お知識や技術が身につくような授業を進めていきたい。また、講義や演習を通して学生相互の学び合いが進むように配付資料や授業の内容を検討し、活気のある授業を行っていきたい。”

授業評価アンケートは、今年度のように授業最終日に入力する時間を取り、学生の授業への取り組みへの振り返りを促していきたい。そして、その結果を見てさらに授業内容の精選を進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		教職実践演習（養護教諭）	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、看護学科にて教職課程を希望する学生の必修科目であり、養護教諭一種免許状取得のためのまとめの授業である。教育実習の振り返りを行いながら、養護教諭の職務や学校での養護教諭の役割について、演習を通して学びを深めた。授業評価の回収率は100%であった。

今年度もコロナ禍であったが、感染予防に努め対面での授業を行った。学生の授業参加態度の中の質問4が低いのは、養護教諭として就職を希望しない学生に授業への取り組みが低い面が見られ、そのことを自己反省していると考えられる。教員の対応については、概ね高得点で、教員の授業に対しては全般的に高評価（約3.5～3.7以上）を得られており、授業担当教員としても満足をしている。今後も配付資料や授業内容の精選を行い、学生の意欲を高める授業展開を行っていきたい。

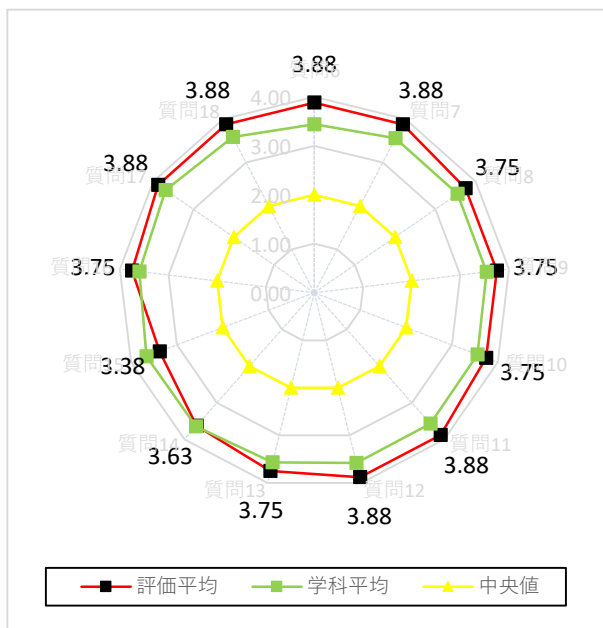
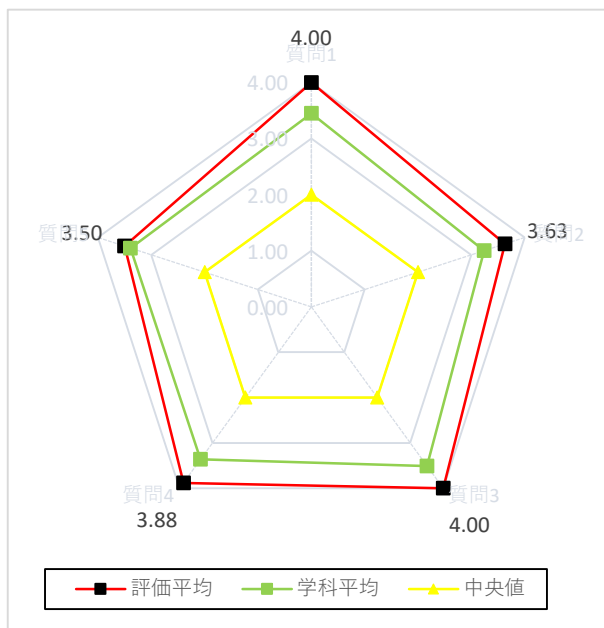
(3) 次年度に向けての取り組み

今後も教職課程のまとめの授業として、教育実習の振り返りを通して、学校保健の3領域や養護教諭の役割について、知識や技術が身につくような授業を進めていきたい。また、講義や演習を通して学生相互の学びあいが進むように配付資料や授業の内容を検討し、活気のある授業を行っていきたい。”

授業評価アンケートは、今年度のように授業最終日に入力する時間を取り、学生の授業への取り組みへの振り返りを促していきたい。そして、その結果を見てさらに授業内容の精選も進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		養護実習事前事後指導	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、看護学科にて教職課程を希望する学生の必修科目である。授業評価の回収率は100%であった。

今年度もコロナ禍であったが、感染予防に努め対面での授業を行った。8回中6回が事前指導で、養護実習の目的や養護実習の内容を説明し、養護教諭の職務や学校保健の3領域の具体的な場面を設定して演習を行った。残りの2回は事後指導として、養護実習の報告会を行い、3年生も参加して熱心に聴講していた。

その結果、学生の授業参加態度は概ね高得点で、教員の授業に対しても全般的に高評価（約3.4～3.8）を得られており、授業担当教員としても充実感を感じている。

今後も養護実習の学びを深めるための指導が行えるよう、配付資料や授業内容の精選を行って行きたい。

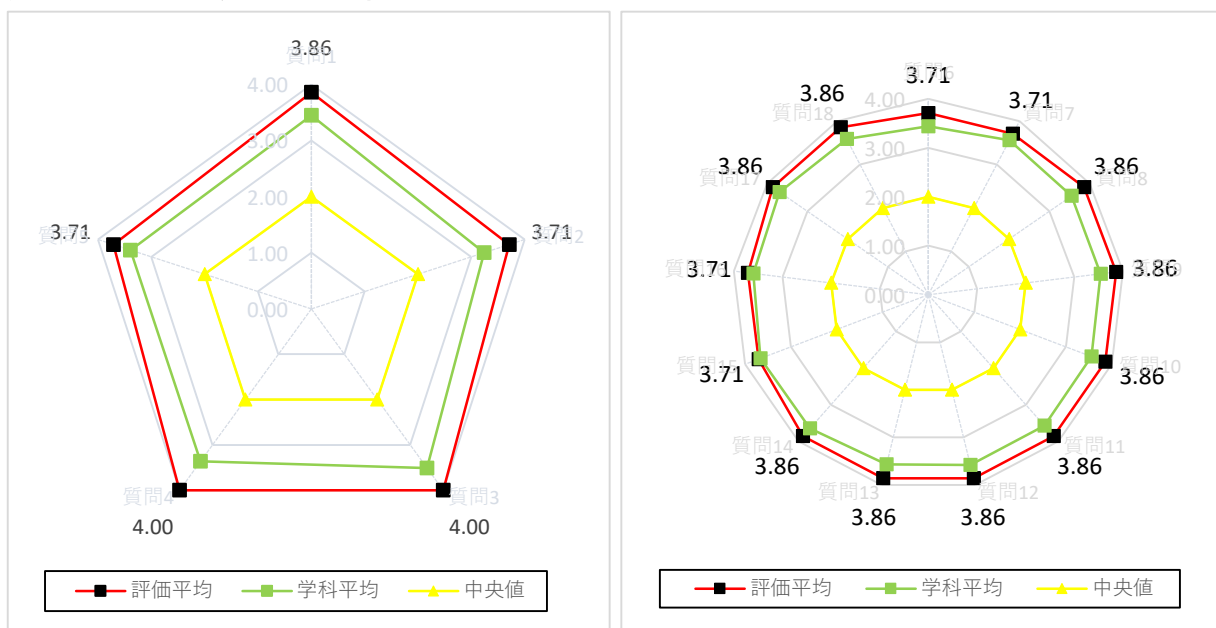
(3) 次年度に向けての取り組み

今後も養護実習で出会う可能性のある場面設定をして、学校保健3領域や養護教諭の職務についての知識や技術がしっかり身につくような授業を進めていきたい。また、講義や演習を通して学生相互の学びあいが進むように配付資料や授業の内容を検討し、活気のある授業を行っていきたい。3年生には、翌年度の養護実習を想定し、学びを深めてほしい。

授業評価アンケートは、今年度のように授業最終日に入力する時間を取り、学生の授業への取り組みへの振り返りを促していきたい。そして、その結果を見てさらに授業内容の精選を進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		養護実習	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、看護学科にて教職課程を希望する学生の必修科目である。後期に実習予定の学生は前期に入力ができず、授業評価の回収率は88%であった。

養護実習は、母校の佐賀県立高等学校や協力校の小城市立小中学校等に3週間お世話になった。養護実習に関しては事前指導を6回行い、いろいろな場面を想定して演習を行っていたので不安は少なかったようで、学生の参加満足度は高かった(3.7~4.0)。また、指導教員は実習学校を巡回指導し、学生の疑問に答えたり、実習指導養護教諭と話し合ったりして、養護実習がスムーズに進むよう配慮した結果、教員の対応についても高評価(3.71~3.86)が得られ、満足している。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も養護実習の、事前指導をしっかり行い、3週間の養護実習中は巡回指導を行い、養護実習が学び多き実習となるよう、しっかり支えていきたい。

また、実習指導養護教諭や研究授業を指導していただいた保健体育教諭からの聞き取りを行い、養護実習に必要な知識や技術がしっかり身につくように、2年次からの専門科目の授業も進めていきたい。

授業評価アンケートは、今年度のように教育実習の報告書提出連絡と共に、メールで入力締切日を連絡し学生の教育実習の振り返りを促していきたい。そして、その結果を見てさらに今後対応を考えていきたい。